

喚スルノ能力ヲ伊太利人ニ與フルハ其多ク失
スルモトセリ其言ニ曰ク此事タル原告ハ争
訟ニ付キ外國裁判所ニ訴フルヲ要セサルヲ以
テ原告ニ取リテハ利益アリト云々中八九ハ
被告ノ為メニ不利益ナリト云々余ハ伊太利立
法者ニ此批評ヲ試ムル諸學者ハ大ニ勢力アリ
ノ人ナリト云々此特別ノ場合ニ於テ外國人自
身ニ召喚スルヲ要スルハ外國人ニ且
法律ノ此規定中ニ其約束ヲ重シクハ外國人ニ
不利ニ此規定中ニ其約束ヲ重シクハ外國人ニ
然ルニ此規定無キニ於テハ原告ハ正ニ提
カ目前ニ在リテ而カモ其理由抗辯ヲ尽ク提

ハ契約上ノ義務准契約私犯準私犯ヨリ生スル
義務ヲ尽ク指スルハ解スルハ是レヨリ第百
五條第三項ノ場合ニ於テハ外國人カ伊太利人
ノ利益ノ為メ或ル義務ヲ契約シタルハ外國人
以テ本條所載ノ條件欠クト云々此外國人所
屬國ノ裁判所カ同一ノ場合ニ於テ伊太利人
裁判スルノ權アル毎ニ伊太利裁判所ハ此外國
人ニ對シテ管轄權アリトス
第百六條ニ付キテハ第二項ハ伊太利ニ於テモ
高注意ヲ受ケタル所ナリ或ル學者ハ外國人カ
伊太利ヲ通行スルハ且外國ニ於テ執行セラ
ルニキ契約ニ於テ結了シ且外國ニ於テ執行セ
ル

スルヲ得ルノ際ニ隔絶セル邦土ニ被告ヲ追搜
セサルヲ得サルヲトナルナリ

(原註)ニエスベシ
前記著書參着

(原註)ニ訴訟法第四百二十二條第四百十四條ニ

外國人召喚ニ付循據ス一キ規則ヲ設クルヲ

ヲ得即チ若シ總理代人アルハ總理代人ヲ

召喚ス訴訟ヲ提出スヘキ法官ノ詰所ノ外戸

ニ揭示十カリシハ裁判廣告誌中ニ檢察官

ニ提出セル召喚ノ寫シヲ記入シ檢察官ニ之

シテ外務大臣ニ轉送ス

第四百七條ハ勿論外國人カ伊太利裁判所ニ召喚

セラルトヲ得ヘキ場合ニ關ス而シテ召喚ノ

場所ハ法文上此第四百七條ヲ以テ定メサルヘカ

ラス故ニ若シ豫定セラレタル場合ニ於テ原告

ハ内國人ニ非ラスシテ王國內ニ住所居所ヲ有

セサル外國人ナルハ召喚ニ付テハ動産所在

地ニ本ツケル管轄權ニ從フヲ要ス第四百七條

ハ數多ノ人ノ批難スル所ナリ而シテ余ハ此場

合ニ於テハ立法者カ原告ノ住所又ハ居所ノ如

キ第二位ニアル管轄權ノ理由ヲ恣マニ採用

シ寧口單純ニシテ自然ニ合スヘキ動産所在

ナル格言ニ本ツケル一般ノ理由ヲ採用セザリ

シニ付キ立法者ノ規定ニ加ヘラレタル批評ニ

同意ヲ表スルモノナリ

余カ既ニ舉示セル外國人ニ係ル特別ノ規定ニ

付キ伊太利ノ學說及ヒ判決例ハ假リノ処分ト

稱シ財産ノミナラス尚亦人ニ関スル所ノ處分
ニ付キ以太利裁判官カ外國人ニ對シ管轄權ヲ
有スルヲ認ムルニ於テ一致セルヲ茲ニ付
言スルヲ有益ナリトス是ヲ以テ物件ニ関シテ
外國裁判官カ争訟ノ本体ニ付キ裁決ヲ下ス
トトシ伊太利法官ニ常ニ保存的差押ヲ請求ス
ルヲ得ルナリ是ヲ以テ人ニ関シテハ例之ハ
外國人配偶者間ノ争訟ニ際シ其一方ノ生營ノ
方法ト安全トニ付假リノ処分ヲ命ズルヲ得
ルナリ第十條第二項ニ義務舉証ノ方法ハ行為
ノ結了セル土地ノ法律ニ依テ規定セラルモ
ノストヤリ此規定ハ古代ニモモ
例カ確認セル理論上及ヒ法律上ノ原則ニ合

スルモノナリ此原則ヲ以テ理論上及ヒ法律上
ノ原則ナリト云フハ当レリト云フヘシ何トナ
レハ此原則ハ契約對手人ノ意志ニ付キ一層論
理ニ合スル推測ヲ採用スルヲ以テナリ是レ此
原則ハ舉証ノ方法ヲ以テ私權ナリトシ且其結
果トシテ國外ニ効力ヲ有スルモノトスルヲ以
テナリ反對ノ原則ハ對手人ノ一方ヲシテ契約
地ノ法律ニ固有ナル舉証ノ方法ヲ許サ、ル他
ノ土地ニ轉住シ以テ他ノ對手人ヲシテ其權利
ノ舉証ヲ為ス不能ハサラシムルナリ前記ノ原
則ハ證據ノ効果及ヒ限度ニ付キ常ニ行為ノ結
了セル土地ノ法律ニ從ヒ公正証書、私印証書、人
證推測差ヒニ對手人宣誓、商人ノ帳簿等舉証全

般ノ制ニ適用セラル、モノナリ
第十條ノ第三項ハ民事ニ付キ外國裁判所カ宣
告シタル裁判ノ執行ニ関ス余カ既ニ述バ
訴訟法第九百四十一條ノ規定ハ甚々精確ナル
ヲ以テ更ニ説明ヲ要セス或ル論者ハ曰リ外
裁判官ノ下シタル裁判ニ執行力ヲ與フルニハ
只裁判ヲ下シタル國ニ於テ執行スヘキモノ
ナリタル既決事件ニ係ル一ヲ證明スルニ必
ナリ書類ヲ提出スルヲ以テ足レリトス且取
審廷ノ如キモ第十條ノ規定ニ関スル審理ニ
付キテハ不用ノモノナリト余ハ全ク伊太利立
法者ニ同意スルモノナリ余ハ一私人ニ十分ナ
ル保証ヲ與フル所ノ訴訟制度ヲ有スル國家ト

ノ條約アル場合ト伊太利及和蘭政府ノ発意ニ
係ル此事項ニ関スル万国全体ノ一致アル場合
ノ外ハ取調審廷ヲ廢棄スルヲ欲セス伊太利
立法者カ取調審廷ヲ控訴院ニ委任セルハ蓋シ
此事タル外國法院カ下シタル裁判ヲ再審スル
ニ非ラサルモ第九百四十一條ニ掲ケラレタル
点ニ付キ本質上審理スヘキモノナルヲ考量
セルヲ以テナリ外國裁判ニ執行力ヲ拒否シ又
ハ許與シタル控訴院ノ裁決ニ對スル上訴ニ付
キテハ判決例ハ裁判上ノ裁決ヲ攻撃スルカ為
メ法律カ許與スル所ノ通常及ヒ非常上訴ノ一
切ノ方法ヲ許容スルナリ只控訴院ハ終審ノ裁
判ヲ下スヲ以テ控訴ヲ為ス一能ハサルノ三

國際盟約の規定了ルノ外
 十ニ語ヲ以テ第十條
 二與ヘラレタリテ伊太利判決例ハ契
 約諸國間ニ於テ外國裁判ノ執行ニ關スル審議
 一層軍簡ニ於テ外國裁判ノ執行ニ關スル審議
 一層軍簡ニ於テ外國裁判ノ執行ニ關スル審議
 以テ之レヲ解釈セリ第十條ノ末項ハ處分及
 七宣告ノ執行ニ着手スル所
 土地ノ法律ニ從
 之レヲ執行スルノ方法ニ關スルモ
 之レヲ
 學理ノ原則及ヒ一般ナル判決例ニ適合シ
 毫モ
 反駁ヲ受クルナシ
 裁判的處分ニ係ル事項ヲ補充スルカ為メ
 余ハ外國官署ノ處分執行ニ關スル規定ノ名義
 ヲ有スル所ノ訴訟法ノ自餘ノ條款ヲ述フルヲ
 以テ有益ナリト信ス

第九百四十三條 外國裁判所カ許容シタル差
 押處分ニ就キテハ第九百四十一條第九百四
 十二條(原註一)ノ適用セラルヘキ場合ニ限リ
 其規定ヲ遵行スヘシ
 第九百四十五條 証人ノ條件鑑定宣誓又ハ其
 他王國內ニ於テ執行スヘキ豫審ノ處分ニ關
 スル外國裁判所ノ宣告及ヒ處分ハ此等ノ處
 分ノ完了スヘキ土地ノ控訴院ノ單純ナル命
 令ヲ以テ執行スヘキモトス(原註二)
 (原註一)本報告書ノ第四十五頁參看同頁ニハ
 亦第九百四十四條ヲ載セタリ
 (原註二)是レ他國ノ裁判官ノ囑托ニ付キ訴訟
 法ヲ定ムル所ノ規定ナリ

若シ關係對手人カ直接ニ執行ヲ請求シタル
 片ハ控訴院ニ上訴ヲ為シテ以テ審廷ヲ開キ
 且之レニ添フルニ要求セラレタル行為ヲ命
 スル所ノ宣告又ハ裁判ノ公正謄本ヲ以テス
 若シ外國裁判所ヨリ執行ヲ求メタル片ハ外
 交手續ヲ以テ請求ヲ送達シ之ニ宣告又ハ
 裁判ノ謄本ヲ添ユルニ及ハヌ控訴院ハ檢察
 官ノ意見ヲ聞キタル後全局會議ヲ以テ之ヲ
 討議ス若シ控訴院カ執行ヲ許容スル片ハ要
 求ニ係ル行為ヲ執行セシムルノ權能ヲ有ス
 ル裁判所又ハ官吏ニ該行為ヲ委任ス
 第九百四十六條 外交手續ヲ以テ請求アリタ
 ル片且關係人カ前條ニ掲ケタル行為ノ執行

二 従事スヘキ代訟人ヲ設定セザリシ片ハ必
 要ナル處分召喚及ヒ通知ハ之レヲ執行スル
 所ノ裁判所ニ於テ当然為シ及ヒ命スルヲ
 得ヘシ其請求ニ係ル行為カ特別ノ情状ニ因
 リ急速ヲ要スル片ハ職權ヲ以テ關係人ヲ代
 表スル所ノ代証人ヲ任命スルヲ得若シ關
 係人ノ出席カ其行為ニ必要ナルカ又ハ許容
 セラレハ片ハ王國內ニ於テ居所ヲ有スル
 判然ナル對手人ニ執達吏ヲ派シ行為執行
 期日ヲ定ムル所ノ命令ヲ單純ナル書狀ヲ以
 テ告知ス但シ自餘ノ對手人ヲテ其事ヲ知
 ラシムルカ為メニ右命令ノ謄本ヲ外交手續
 ヲ以テ外國官署ニ送達スヘシ

第九百四十七條 外國官署 = 出頭スヘキ召喚

又ハ外國ニ於テ發生セル行為ノ單純ナル通知

知ニ係ル中ハ其管轄内ニ於テ召喚又ハ通知

ヲ為スヘキ法院又ハ裁判所ニテル檢察官(原

註)通知ノ許可ヲ下付スルモトス若シ外交

手續ニヨリテ召喚及ヒ通知ノ請求アリタル

中ハ檢察官ハ直接ニ執達吏ニ命シテ之レヲ

為サシムヘシ

第九百四十八條 第九百四十五條、第九百四十

六條、第九百四十七條ニ掲ケタル行為ヲ王國

内ニ於テ執行スルニ當リ確定裁判ノ執行ニ

係ル片ハ取調審廷ヲ開クノ必用ヲ免セザル

モノトス

第九百四十九條 第九百四十一條、第九百四十

二條、第九百四十三條、第九百四十四條、第九百

四十五條、第九百四十六條、第九百四十七條ノ

明文ニ從ヒ其ヘラレタル執行力ハ他ノ裁判

管轄内ニ於テモ執行ヲ求ムルカ為メ有効ナ

リトス

第九百五十條 此編ノ規定ハ國際條約及ヒ特

別法ノ規定ニ從フモノトス

訴訟法第百〇八條ニ基因スル所ノ伊太利法

ノ總則ハ伊太利裁判所ヨリ外國裁判所ニ充テ

タル囑托ニ關シテハ國際法ノ法式即チ外交手

續ニ循由スヘキ旨ヲ定ム

(原註) 余ハ檢察官ニ關スル条ノ報告書ニ於テ

了

此事項ニ関スル檢察官ノ職掌ヲ詳説シタル
ヤヲ記臆セズ然レモ余ハ檢察官ノ事項ヲ擔
任セラルル者ハ此干渉ノ職掌ヲモ参照セシ
トヲ欲ス
伊太利ト數多ノ國トノ國際條約ハ條約諸國ノ
囑托ニ關スル互相ノ規則ヲ設テ以テ條約諸國
ノ裁判所ノ通信ヲ簡約ニシ且之レヲ容易ナラ
シムルノ方法ヲ定ム

第十一條

刑法及ヒ公安警察ニ關スル法律ハ凡テ王國ノ
領地内ニ在ル者ヲ繫束ス
此條款ハ註釈ヲ為スノ要ナシ若シ外國人カ領
地ノ區域内ニ於テ秩序安寧ヲ維持シ犯罪ヲ預

防シ及ヒ犯罪ヲ鎮制處罰スルノ用ニ供セラレ
タル法律ニ服従スルノ義務ナシト考量スルコ
トヲ得ハ各國ノ主權及ヒ政治上ノ獨立ハ為メ
ニ侵害セラルルナキヲ得ンヤ余ハ茲ニ最モ簡
單ナル原則ヲ示スニ止コリ敢テ國際刑法ノ諸
問題ニ立入り一國ノ刑法カ國民又ハ外國人カ
領地外ニ於テ為シタル既遂ノ所為ニ就キテ効
力ヲ有スルヤ否ヤノ場合ニ論及セズ余ハ亦告
訴ノ本質又ハ法式ニ就キ諸外國ノ文際官ニ関
スル諸問題ニ論及セズ余ハ唯一般普通ノ法律
中ニ止マリ争フ可カラサル規則ヲ叙述スルニ
過キズ刑法公安警察ニ關スル法律ハ公共ノ理
由秩序公法ニ關スル法律ニシテ國家カ因テ以

テ自己ノ國民及ヒ其領地内ニ在ル所ノ外國人
ノ身体財産ヲ保護防衛スルノ方法ナリ故ニ外
國人カ一國ニ來リテ其保護ヲ仰キナカラ其法
律ヲ蔑如スルヲ得ヘントスルハ條理ニ反ス
ルノ見タルヲ免カレズ此事項ニ就キテハ領地
内主權ノ原則ハ排斥スルコト能ハサルモノナ
リ抑一國ノ主權ハ其領地内ニ於テハ法律上及
ト事實上行ハルモノニシテ社會秩序ノ保護
防衛ハ國家ニ執リテハ生存ノ問題ナリ各國カ
公共ノ秩序ノ理由ニ依リ如何ナル外國人ナリ
トモ之ヲ領地外ニ放逐スルノ權ハ即チ此主
權及ヒ獨立ノ元則ヨリ來ルモノナリ

第十二條

國際法會院ノ發議セル規則第ハ條ハ伊太利法
第十二條ト同一ノ適用ヲ為スヲ以テ主旨トス
レ凡伊太利法ニ比シテ頗ル簡單ナル法文ヲ以
テ起草セラレタリ然レモ最モ熱心ニ伊太利法
ヲ贊成スル所ノローラン氏(原註)及ヒ自餘ノ法
學者ハ我第十二條ヲ以テ少シク明瞭ナラサル
モノトセリローラン氏曰ク人事財産行為ニ関
スル禁止法トハ何ヲ云フヤ一ケノ法律カ禁止
ノ方式ヲ以テ起草セラレタルノミヲ以テ物上
法トナルヲ得ルヤト然レモ是レ決シテ伊太
利法ノ真意ニ非ラサルナリ若シ此ノ如リナル
片ハ人ノ身分能力ヲ規定スル所ノ法律ハ法典
カ之レヲ身分法ト為スニ関ラズ物上法トナ

ルニ至ラン

(原註) 國際私法第二卷(伊太利法ニ拠レル公共

ノ秩序
例之ハ滿十八歳以下ノ男子滿十四歳以下ノ女子
子ハ婚姻ヲ契約スルコトヲ得ス是レ即チ禁止
法ニシテ人ノ身分ニ関スル禁止法ノ過半ト同
一ナリ其禁止法タルノ理由ニ本ツキ此法律ハ
外國人ヲ繫束スルモノナリト論結ニ以テ伊太
利法第十二條ノ意ヲ鮮叙スルコトヲ得ルヤ是
レ決シテ否ラス何トナシハ同法典第六條ニ記
スル所ハ全ク之レニ反ス曰ク人ノ身分能力及
親屬ノ關係ハ其人ノ附屬スル國ノ法律ヲ以
テ規定セラント余輩ハ人類ノ沿革、民法、國際私

法ニ就キテ研究ヲ為シタル著名ナル學者ノ勢
力ノ爭フヘカラサルコトヲ了認スルモノナリ
且其學理上ノ價值アルト其ノ常ニ伊太利法ノ
原則ニ準拠スルトハ余輩ヲシテ其駁撃ハ大ニ
注意ヲ為スニ足ルモノナルヲ考量セシメタリ
然レモ余ハ伊太利法第十二條ヲ以テ國際私法
會院ノ發議ニ係ル第ハ條ニ優レリト信ス此第
ハ條ハ其完全ナルノ点ニ於テ伊太利法ニ及
ス伊太利法文ハ高名ナル余ノ先師マニチニ
氏ノ注意セル如ク甚々理解シ易クシテ前數條
中ニ包含セラルル所ノ規定ニ制限ヲ為スモノ
トシテ適用セラルルコトヲ得ルナリ即チ此法
文タル外國ノ法律、判決先ニ一切ノ私ノ規定
定及ヒ合意ニシテ苟クモ或ル關係ニ就

キ一國ノ公安風俗又ハ公法ニ関スル現行ノ禁
 止法ニ反則若クハ犯罪ヲ構成スル中ハ其國ノ
 領地内ニ於テ決シテ之レニ効力ヲ與フルコト
 ヲ得ヌト宣言シタルモノナリ私法會院ノ條規
 中ニ欠乏スルモノハ即チ右私法會院ノ條規
 ニ関スル部分ナリエスベシソノ氏ハ注意ヲ喚
 起シテ曰ク第十條ハ二ヶノ規則ヲ包含スル
 モノナリ其ハ民法ニ関シ其二ハ國際私法ニ
 係ル民法ノ規則ハ羅馬人ノ賢明ニ依リテ保存
 セラレタル所ニシテ其意タル國民ハ唯其私益
 ニ関スル法律ニ反則ヲ設クルノ權能アリ然レ
 凡公ノ秩序又ハ風俗ニ関スル法律ニ反則ヲ設
 リルヲ得ヌト言フニ在リ(原註)公ノ秩序又ハ風

俗ニ関スル法律ニ付キ設ケラレタル此規定ハ
 ヲシヤ私法會院ノ規定ニ於ケルカ如ク簡單ナ
 ラサルモ遠カラスレテ判決例ニ依テ確定セラ
 ル、ニ至ルヘシ然レ民法律中ニ明文ヲ掲グル
 ヲ以テ更ニ實用ニ適スルモノトス伊太利法ハ
 禁止法ニ就キテ此規則ヲ補全セリ且禁止ノ性
 質ヲ有スル所ノ法律ニ反スル能ハスト明言シ
 以テ國民カ其本國又ハ外國ニ於テ為シタル合
 意又ハ規定ニ就キテ生スル所ノ難問ヲ一掃セ
 ンコトヲ欲シタリ次ニ第十條中ニ確認セラ
 レタル國際私法ノ規則ハ外國ノ法律處分宣告
 ハ其禁止法タルト命旨法タルトヲ區別セス苟
 其公安風俗ニ関スル王國ノ法律ニ反則ヲ設
 三

ルコトヲ得ス
外國ノ私法ニシテ國際公法ニ反對スルハ之
ヲ通用スルコトヲ得ス
各邦ノ獨立ニ故任セラレタル範圍ノ廣狹ヲ解
スルニハ一ケノ注意ヲ首益ナリトス公ノ秩序
ハ何レノ國ニ在リテモ廣キ意義ニ解スルトキ
ハ其國ニ於テ理解公認スル所ノ人類及ヒ社會
ノ道德ニ関スル高等ノ原則一國ノ良風、人性天
賦ノ權、及ヒ何レノ國ノ人定法度ヲ以テスルモ
人類意志ノ行為ヲ以テスルモ有知ニシテ且諸
國ヲシテ之レヲ遵奉セシムヘキ友則ヲ設クル
コト能ハサル諸般ノ自由ヲ敬重スルノ意義ヲ
含ムモノナリ

原註マニナニ一氏ノ說既ニ前文ニ掲ク國際
法論第七卷

若シ外國ノ法律外國ノ裁判又ハ外國ニ於テ結
了セル行為及ヒ契約ニシテ此原則ヲ破リタル
片ハ各主權者ハ人性及ヒ道德ニ被ラシメタル
凌辱ヲ兼認セサルハ勿論正當ノ名義ヲ以テ其
領土内ニ於テ之レヲ總ラシテ効果執行ヲモ與フル
ヲ拒絶スルコトヲ得而シテ道義上ノ秩序ト西
立スヘカラサル制度ヲ拒絶スルコトヲ得ルノ
ニナラス尚一社會ニ於テ一定セル經濟上ノ秩
序ト兩立スヘカクナル制度ヲモ能ハスルヲ
得何トナレハ經濟上ノ秩序ハ公ノ秩序ノ混博
ナル意義中ニ包含セラレ、ヲ以テナリ各國ハ

其理解シ及ヒ確定シタル所ノ公法ノ衛護スル
ノ推方ヲ有ス公法ノ保存ハ一大利害ノ関スル
所ナリ各人民政治上ノ生活ノ最モ嚴格ナル處
分ハ公法中ニ存在スルモナリ公法ハ能ク一
國民ノ慣習遺傳其政治上及ヒ社會上ノ生活ノ
痕跡ヲ顯彰ス而シテ如何ナル外國主權者ト
トモ此公法ニ侵害ヲ加フルコトヲ得ス何トナ
レハ是レ國家一般ノ利益ヲ損害スルヲ以テナ
リ故ニ國民タルト歸化セザル外國人ト然ラザル
外國人タルト分々且ツ所有主ノ如何ヲ論
セズ領土内ニ在ル所ノ一切ノ物件其性質ノ何
物タルヲ問ハス又ハ如何ナル權利ニ依テ執行
セラル、ヤヲ論セズ一切ノ訴權ハ皆公ノ秩序

及經濟上、政治上、道德上、宗教上ノ秩序ヲ保存ス
ルカ為メニ設ケラレテ斯ノ會社ノ基礎トナル
所ノ原則ニ從ハサルヘカラス今精確ナル方法
ヲ以テ其公法中ニ入ルヘキモノト私法中ニ入
ルヘキモノトヲ判別シ立法中ニ盡リ其規定ヲ
列舉センコトヲ欲スルハ到底為ス能ハサルノ
事ナリ總テ社會ノ風俗、公共ノ道德、經濟上ノ利
益及ヒ所有權ノ制度ヲ護衛スルカ為メニ設ケ
ラレ又ハ仁愛ノ理由ニ依リテ設ケラレ又ハ道
徳上及ヒ宗教上ノ利益ニ関スル所ノ一切ノ規
定ハ公法又ハ私法ニ關スル立法中何レノ部
分ニ包含セララル、モ皆公法ニ屬レ又ハ公法ヲ以
テ支配セララル、モナリ伊太利ノ制ニ於テハ

第十條ト或ル場合ニ於テ外國法ノ効力ヲ美
認スル所ノ自餘ノ條款トノ間ニ抵觸ノ虞ナシ
伊太利立法者ハ其國法中ニハ外國法ニ異ナル
ノニナラス尚ホ其國民ノ為メニ禁止的ノモ
々ル規定アリ刺カ一此規定ハ彼ノ私法ノ規
中明カニ公法ノ性質ヲ帶フルモト私法ノ規
トヲ得一キノ理由ヲ以テ前數條ニ從ワテ外
法ヲ有知トスルモノニアラス伊太利立法者ハ
外國ノ法律處分ニシテ其方法ノ如何ヲ論セ
公ノ秩序及ヒ風俗ニ反スル片ハ之レニ効力ヲ
與フルコトヲ拒ムモノナリ實際ニ於テ若シ一
規定ノ社会全般ノ秩序ニ墮スルヤ否ヤニ就
テ疑義アル片ハ其疑義ヲ決スルノ權ハ裁判所

ニ屬ス而シテ判決例ノニテ以テ實際異種ノ場
合ニ立法者カ一般ノ原則ヲ適用スルコトヲ明
亮ナラシムルコトヲ得

第三

余ハ此報告書中ニ於テ既ニ伊太利民法總則第
三條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條、第十
條、第十二條ニ就テ詳論シテ遺ス所ナキヲ以テ
伊太利立法者ノ事業ヲ明瞭ナラシムルカ為メ
更ニ付言スルノ必要ナシト信ス伊太利立法者
ノ規定中駁撃ヲ受クルモノ間カアリト虽凡多
リハ學理ノ進歩ト法律ノ勝利ニ適フモノニシ
テ此駁撃ハ遺傳ノ執拗ナルニ根據ニ專恣ニ涉
ラス且姑息ニ流レガレ伸太利法ノ精神ニ全ク

地歩ヲ讓ルニ至ラシイタ利立法者ハ國際私法
 ノ完全ナル制ヲ有シ且人推ノ敬重人類間法律
 ノ共同各國公ノ秩序ノ權利ト必要ノ敬重ニ基
 ケル確定ノ原則ヲ適用スロシラシ氏曰ク國際
 私法ハ伊太利ニ淵源セリ伊太利ハ國際私法ノ
 開明的事業ヲ再興セリ伊太利立法者ハ事業ハ世
 法ノ權力ヲ開始セリ伊太利立法者ノ事業ハ世
 界ニ傳播スヘシ而シテ事實上速カニ此著名十
 ル學者ノ言ニ應シ諸國皆其民法ヲ改正シ又學
 者ハ伊太利立法者ニ贊成ヲ表スルニ至リ
 (原註)余ハ此報告書中千八百七十七年ノ法律
 ノ修正ニ從ヒ海上法ノ規定ヲ記述スルヲ要
 セスト信ス此修正ハ船舶ノ所有權ニ關スル

外國人ノ干與ヲ規定セルモナリ其他外國
 商社ニ關スル商法ノ規定國際刑法ニ關スル
 刑法ノ規定等モ亦記述スルノ要ナシト信ス
 是等ノ規定ハ其目的トスル所立法ノ特殊ノ
 部分ニ屬スルヲ以テ必要アルニ際シ別ニ説
 明スルトコロアル可シ

シユルツェンスタイン氏述

日本ノ民事訴訟法草案

日本ノ民事訴訟法草案 明治十九年 印刷

千八百六十八年日本ニ國法上及ヒ社會上ノ愛

勤アルルヤ日本ハ茲ニ從未無細亞ノ氣勢ニ制セ

ラレタル特種ノ發達ト断然相絶ツラ國家ト人

民ヲ歐洲ノ文明世界ニ深結セシムルノ世運ヲ

開キタリ是ニ於テカ又其必然ノ勢トシテ一部

分ハ重モニ支那ノ風氣ヲ學ヒテ作リタル成文

律大部分ハ尚古來ノ習慣、但シ首トシテ亦支那

ヨリ移シタル思想ニ基キシ古來ノ習慣、ヨリ成

リ立ツ旧來ノ法律狀態ニ較著ノ改革ヲ加一サ

ルヲ得ス而シテ其改革モ亦歐洲ノ精神ヲ以テ

之ヲ行フノ外アルヲ得サルハ論ヲ待タサルナ

ミユルツエンスタイン述

リ既ニシテ其改革ニ著手スルヤ頗フル熱心ヲ以テシタリ又之ニ從事スルニモ其改革ノ決行ハ是ヨリ先キ日本人ガ強ヒテ締結セシメラレテ甚ハタ宮東ノ感ヲ有スル所ノ外國人ヲシテ日本裁判權ノ下ニ立タシメスシテ其國領事ノ裁判權ノ下ニ立タシムル國際條約ヲ廢除スルノ前ハ條件ナルカ故愈々益々堅忍ノ志ヲ以テスルヲ見ル
斯クテ今ヨリ數年ノ前既ニ刑法治罪法ヲ制定シ治罪法ノ内當分尚實施ス可カラスト思ハレタル二三ノ規定ヲ除ク外ハ千八百八十一年ヨリ皆之ヲ實施セリ而シテ右ノ刑法ハ現今又改正中ナリトス其他為替條例ノ發布アリ又巨

多ノ法律ヲ以テ或ハ一定ノ別段ノ事項ニ付キ周到ノ規定ヲ設ケ或ハ其事項ニ關スル旧來ノ法規ヲ其大體ニ於テハ存留シテ之ニ變更ヲ加ヘ若クハ之ヲ補完セリ即チ抗法銀行條例取引所條例公証人規則及ヒ株式會社保險會社鐵道會社等ニ關スル各法律ハ右第一種ニ屬スルモノニシテ破産手續及ヒ訴訟手續ニ付テハ第二種ノ如クシ就中訴訟手續ニ關シテハ以テ準備書面ノ交換等ニ關スル規定ヲ新設セリ
此外民法モ亦今方ニ其編纂中ニシテ其大部分ハ既ニ其業ヲ終ハリタリ
又憲法モ同断ニシテ其成ルヤ亦司法ノ上ニ間接ノ効果ヲ及ホスノ規定ナクシハアル可ラズ

其他尚今ヲ距ルテ遠カラサルハ前訴訟法及ヒ
裁判所構成法ヲ制定スルカタメニ各々特別
委員會ヲ設ケタリ其委員ノ一部ハ歐洲殊ニ
漏西ニ講學シテ以テ其豫修ヲナセシモノナリ
トス既ニシテ其訴訟法草案ハ千八百八十六年
ニ成リ千八百八十七年ニハ其善美ノ獨逸
歐洲殊ニ此編ノ稿者ニ回村シ以テ閱覽ヲ求メ
意見ヲ徴シタリキ裁判所構成法ノ草案モ亦其
完結近キニ在リ
右ノ兩草案タルヤ獨字現今ノ法律狀態ヲ移ス
テ隨分密ナリトス然レ凡他ノ諸草案諸法律ニ
至テハ專ハラ獨逸以外ノ法律ニ因ルモニ
テ其之ニ因ルヤ亦右兩草案カ獨字ノ法律ニ因

ルニ劣ラサルナリ例ハ鐵道會社ニ關スル法
律ハ英米ヲ模範トシ公証人規則ハ和蘭及ヒ重
ニ佛蘭西ヲ模範トシ而シテ刑法治罪法並ニ
民法草案ノ如キハ最モ佛蘭西ヲ模範トセリ蓋
シ獨字ト佛國トノ法律上ノ事形ニハ大ニ相違
スル所之アリテ其大相違ノ一部ハ根本ノ思想
ノ相同シカラサルニモ原由シ又本實法ト訴訟
手續ノ間ニハ密着離ル可ラサルノ關係アリテ
互ニ其根基ヲ異ニスルテ能ハサルモノナリ
事ノ情狀右ノ如シトセハ訴訟法及ヒ裁判所構
成法ノ兩草案ト他ノ法律及ヒ草案トノ間ニ根
本上ノ抵觸ナカラシムルハ誠ニ難カルヘシ
日本訴訟法草案ノ旨要及ヒ包圍ノ大ナル素ヨ

リ以テ深ク注思スルニ足レリトス加フルニ獨
逸ト日本トハ其關係近年甚ハタ活潑トナリ又
愈々活潑ヲ加フルノ勢アリ殊ニ其模範ハ獨逸
ノ訴訟法^法ノ漏西ノ不動産強制執行法ナリトセ
ハ該草案ノ詳細就中該草案カ獨逸ノ右ニ法律
ヲ取テ其規定ヲ右ニ法律カ素ト其適用ヲ期シ
タル關係ト大ニ相異ナルノ關係ニ適用スヘシ
トスルノ点何如及ヒ其ノ右ニ法律ヲ取ラザリ
シノ点之ヲ取ラスシテ自ラ設ケタル規定ノ何
如ニ關スル詳細ヲ知ルハ吾人ノタメ一般ノ利
益ナクシハアル可ラザルナリ
抑モ該草案ハ八十七條ヨリ成ルモ
シテ其ノ涉ル訴訟手續ノ總體ニ及ヒ不

動産強制執行ヲモ單々之ヲ規定セリ但タ婚
姻事件ノ手續(日本ハ一夫一婦ノ制ナレバ婚
ノ争訟ハ旧慣ニ依リ之ヲ裁判ス)禁治産事件ノ
手續(此手續ハ行政廳ノ權限内ニ屬ス)公示權告
手續及ヒ仲裁々判手續ヲ除クノニ又獨リ民事
訴訟手續ニ固有ナルノニナラズ凡ソ訴訟手續
ニハ皆之アルヘク則チ民事刑事ノ訴訟ヲ通シ
テ齊シク其定メアルヘキ數事項ヲモ掲ケタリ
審判公行法廷取締裁判所ノ用詔訴訟記録ノ設
定具備即チ是ナリ尚本実法ニ屬スヘキ規定モ
アリ例ヘハ為替上ノ請求ニ對シテナレ得ヘキ
抗辯ニ關スル規定損害賠償ノ義務ニ關スル規
定ノ如キ即チ是ナリ損害賠償ノ義務ニ關スル

規定トハ例ハ債権者其強制執行ヲ停止スハ
キ義務ヲ生スル事実存スルヲ知ルモ正時ニ
必要ノ取計ヒテテスルヲセズメニ損害ヲ生
セシメタル場合ニ於テ之ヲ賠償スルノ義務又
ハ債務者物若クハ債権ノ差押ヲ蒙ルリタルモ
其物若クハ債権ニ付テハ差押ノ際不在ナリシ
第三者所有権若クハ質権ヲ有スルニ直チニ之
ヲ通知ヲナスルヲセズメニ損害ヲ生セシメ
タル場合ニ於テ之ヲ賠償スルノ義務ニ関スル
規定ヲ云フ
右八百七十四ノ条ハ又之ヲ分ケテ八篇トナス
第一裁判所第二當事者第三審判通則第四第一
審手續第五上訴第六再審手續第七特別訴訟手

続第八強制執行即チ是レナリ

第一

其裁判所ヲ治安裁判所始審裁判所扣訴院及ヒ
大審院トス此等ノ裁判所ハ治安裁判所ニ單獨
判事ヲ置クノ外皆合議裁判所ナリ
治安裁判所ハ唯第一審ノ裁判所ニシテ其権限
ハ目的物ノ價格百圓ノ上ニ出テガル財産法上
ノ請求ニ関スル諸般ノ争訟ヲ裁判ニ及ヒ尚目
的物ノ價格ニ拘ハラズ幾種ノ争訟ヲ裁判スル
ニ在リ其争訟ハ即チ我裁判所構成法第二十三
条第二ノ初メ三項ニ掲ケルモノト大要相同シ
トス官吏カ其職務上ノ關係ニ付キ國家ニ對シ
テ起ス請求行政官廳ノ處分及ヒ官吏ノ職務上

過失若クハ誤謬ニ付キ國家ニ對シテ起テ請
求官吏ノ職務上ノ過失若クハ誤謬ニ付キ官吏
ニ對シテ起テ請求及ヒ租税ニ關スル請求ニ至
テハ何如ナル場合ト雖モ治安裁判所ノ權限ニ
屬セザルナリ
其目的物ノ價格十円ノ上ニ出テザル財産法上
ノ爭訟ニ至ラハ治安裁判所ハ又同時ニ第一審
ノ裁判ヲモテスモトス是レ治安裁判所ハ第一
一審ニシテ又第二審ノ裁判所ナリトノ謂ニ非
ス唯右ノ如キ爭訟ニハ扣訴ヲ許サストノ謂ナ
ルノ三
始審裁判所ハ第一審及ヒ第二審ノ裁判所トス
而シテ第一審ノ裁判所トシテハ治安裁判所ノ

權限ニ歸セザル諸般ノ民事爭訟ヲ裁判シ及ヒ
特ニ治安裁判所ノ權限ヨリ取離ナシタル前掲
ノ爭訟ヲ其目的物ノ價格ニ拘ハラス裁判ス但
ニ此爭訟ニシテ行政裁判所ノ權限ニ屬スルモ
ノ別段ナリ又第二審ノ裁判所トシテハ治安
裁判所ノ判決及ヒ其他ノ裁判ニ對スル扣訴抗
告ノ裁判ス
扣訴院ハ唯第二審ノ裁判所ニシテ則チ始審裁
判所ノ第一審判決ニ對スル扣訴及ヒ左裁判所
ノ裁判ニ對スル抗告ヲ裁判スルノ權限ヲ有ス
ルナリ
大審院ハ最高級ノ裁判所ニシテ扣訴院ノ判決
及ヒ其他ノ裁判ニ對スル上告抗告ヲ裁判ス又

價格十円以内、財産法上ノ争訟ニ就ケル迄
裁判所ノ判決ニ對スル上告及ヒ始審裁判所
第一審判決ニ對スル上告ヲモ裁判スル一段ハ
是レ特異ノ規定ナリ
裁判所ノ権限ヲ定ムルノ標準タル争訟目的物
ノ價格ヲ計算シ確定スルノ標準タル争訟目
法第三條乃至第十一條ニ於ケル同一ノ規定
ヲ設ケタリ其相異ノ点ハ唯一ニ止マレ
裁判所ノ管轄ニ關スル規定ニ至テモ亦殆ト全
ク我法ト符合セリ其相違ノ点トシテ茲ニ舉
ヘキモノハ唯左ノ一点ノ三即チ共同訴訟人ト
シテ相借ニ訴ヘラルヘキ二名以上ノ人各々其
住居スル裁判管轄區ヲ異ニスル中ハ其共同

訴訟ハ必然ノモノタルニ非サル場合トモ比以
テ差攝ヒテ其ノ孰レカ一ノ裁判所ニ其諸人
ニ對スル訴訟ヲ起スヲ得ヘク上級ノ裁判所ニ於
テ其管轄裁判所ヲ定ムルカ如キ一ハラサル
ナリ
其他又裁判所ノ権限及ヒ管轄ノ約定先ニ裁判
所員ノ除斥及ヒ忌避回避ノ一モ其大要ハ全ク
我法ノ如シトス其ノ殊ニ異ナル所ハ左ノ數点
ノ三當事者互相ノ約定ヲ以テ治安裁判所ニ屬
スル事件ヲ始審裁判所ニ提出スル中ハ始審裁
判所ハ同時ニ第一審及ヒ第二審ノ裁判ヲナス
其約定ハ裁判所ノ権限違ヒ若クハ管轄違ヒナ
ル一ヲ主張セズレテ本案ノ口頭審問ヲ受ケ以

テ黙示シテ之ヲ取結フヲ得ヘシト虽凡明示
テ其約定ヲナスノ場合ニハ書面ニテ之ヲ取結
ト本訴若クハ反訴ト共ニ之ヲ提出スルヲ要ス
忌避ノ申請大審院ノ判事ニ関スルハ大審院
ハ毎ニ自ラ之カ裁判ヲナシ必要ノ場合ニ於テ
司法大臣ハ本案ノ裁判ニ関係ナキ扣訴院ノ
判事ヲ命ジテ右ノ裁判ヲナスニ要用ナル員數
ヲ充タシテ故意若クハ重過失ニ因リ忌避ノ申
請ヲナス者ハ五十四以下ノ科料ニ處スト云フ
一即チ是ナリ
之ニ反シテ第一編裁判所ノ末章タル「檢事」立
會ニ関スル規定ニ至テハ全ク特異ニシテ此規
定ハ則チ人ノ知ル佛蘭西ノ判規ヲ因襲シタル

ナリ即チ其規定ニ依ルニ國家府縣郡區町村社
寺若クハ人團ノ關係スル事件官吏ノ職務上ノ
過失若クハ誤謬ニ付テ官吏ニ對スル請求ノ争
訟トナリ若クハ租税ニ関スル請求ノ争訟トナ
リタル事件人事權ニ関スル事件未成年者癡癩
人白痴人被禁治産者失踪者若クハ遺産ノ關係
スル事件管轄違ヒ權限違ヒノ抗辯起リタル事
件証書ノ真偽ヲ争フ事件又ハ再審事件ニ於テ
ハ裁判所ハ但シ治安裁判所ハ重要ノ場合ニ限
リ、口頭審問ヨリ少ク凡三日前ニ其裁判所ノ檢
事ニ之カ通知ヲナシ以テ適當ト思惟スル場合
ニ其意見ヲ陳述スルノ機會ヲ與フヘシ總ヘテ
其他ノ事件ニ於テモ檢事ハ口頭審問ニ立會ハ

之メラレシ裁判所ニ立會ハシテ請求
スルヲ得ヘシ核事其意見ヲ陳述セシト欲スル
片ハ口頭審問ノ終末ニ於テ發言ス核事ハ裁判
所ノ評議ニ立會テ得テ核事ニ事件ノ通知
ヲテサカシル又其通知ヲ受ケテ核事口頭審問
ニ立會ハス若クハ立會テ意見ヲ陳述セザル
氏當事者ハ以テ如何ナル上訴ヲモナステ得
サレテ蓋シ以テ其規定タル實地ニ於テ困難
ヲ生スルハ免ル可ラザル所ニシテ其實地ノ困
難ハ治安裁判所核事ノ資格ヲ定ケルニ付テ殊
ニ之アルヘシ然ルニ其困難ノ如何ハ充分之ヲ
明ニセザリシヤ殆ト疑ハシ其他右ノ規定ニ付
テハ極メテ危疑スヘキモノ尚之アリトス

然リ而シテ核事ヲ民事訴訟ニ參與セシムルハ
獨リ右ノ規定ノミナラズシテ其規定尚又外ニ
存スルナリ即チ管轄裁判所ヲ定ムルノ申請ヲ
上級裁判所ニ送テ裁判シ及ヒ判事ノ忌避ヲ裁
判スルニハ先ッ書面ヲ以テ核事ノ意見ヲ尋又
ハク又訴訟費用ノ支辨猶豫ヲ先許スルハ其先
許ヲ先許ノ要件初ヨリ具存セズ若クハ既ニ消
滅シタルヲ以テ取消スヘシ及ヒ支辨猶豫ノ先許
ヲ得タル當事者自己及ヒ家族ノタメ必要ナル
給養ヲ害サハスシテ其ノ一時猶豫ヲ得タル金
額ヲ追辨スルヲ得ルニ至リタル其追辨ノ義
務ヲ裁定スルハ皆受訴裁判所核事ノ任ナリト

第二編ハ訴訟能力、當事者死亡ニ若クハ訴訟能
 力ヲ喪失シ又ハ當事者未タ訴訟能力ヲ得ル
 = 其法律上代人死亡ニ若クハ其代理権絶止ニ
 タルノ場合ニ於ケル手續ノ中止、共同訴訟、訴訟
 参加、訴訟代理及ヒ訴訟輔佐、訴訟費用、保証及ヒ
 訴訟費用ノ支辨猶豫ヲ規定スルモノニテ其
 規定ヲ立ツルヤ全ク我訴訟法ノ当該規定ヲ兼
 襲シ或ハ其文字ノ儘ニ因リタルモノモ少ナシ
 トセス因テ其規定ヲ茲ニ一々掲出セス稍々首
 要ナル差違ヲ示スニ止リ、一々其差違ハ即々左
 ノ如シトス
 家子及ヒ有夫ノ婦ノ訴訟能力ニ関シテハ一モ

別段ノ規定ナシ
 前掲ノ場合ニ於テ手續ヲ中止シタル片ハ其相
 続人ヨリ若クハ其相続人ヲ指名シテ對手人ヨ
 リ、其法律上代人若クハ其新規ノ法律上代人ヨ
 リ、若クハ其代人ヲ指名シテ對手人ヨリ手續ノ
 續行ヲ申立ツル迄ハ其中止存続スルモノニシ
 テ當事者死亡ノ場合ニ對テ手人其申立ヲナス片
 ハ裁判所ハ口頭審問ノ期日ヲ定メテ其對手人
 カ指名シタル相続人ニ右申立ノ一ヲ通知ス
 キナリ然ルニ相続人其期日ニ出席セス若クハ
 出席シタルモ其相続人タル資格ヲ自認シテ
 訴訟ヲ継
 達ヲナサ、ル片ハ其資格ヲ自認シテ訴訟ヲ継
 続スルモノト見做サレハ一々之ニ反シテ其資格

ナシト論争スル中ハ本案ノ審問ヲ拒絶シテ先
ツ其資格ニ関スル審問裁判アラントテ申立ツ
ルノ権アリトス而シテ判決ヲ以テ其資格アリ
ト断定シタル中ハ其判決ノ確定スル迄以降ノ
手続ヲ延引スヘキナリ
二名以上ノ人ヨリ若クハ二名以上ノ人ニ對シ
テ訴ヲ起シタル場合ニハ裁判所ハ其二名以上
ノ人カ共同訴訟人トシテ相偕ニ訴ヲ起シ若ク
ハ起ガル、一ヲ得ルノ要件具存スルヤ否ヤヲ
職權ヲ以テ査閱スヘキナリ而シテ其要件具存
セサル中ハ一訴訟ヲ以テ數請求ヲ主張スル
ヲ差止メ一名若クハ二名以上ノ原告カ各別
訴ヲ起スニ任ズヘシ此裁判ハ之ヲ論攻スルヲ

得ス
補助参加ハ本訴ノ如クニ之ヲ取扱フヘシ但シ準備
ハク又本訴ノ如クニ之ヲ取扱フヘシ但シ準備
書面ノ交換ハ之ヲナシ、ルナリ又当事者ニ於
テ補助参加ニ異議ヲ容ル、片ハ決定ヲ以テ參
加ノ許否ニ関スル裁判ヲナシ或ハ法律上取上
ク可ラサル參加ナル片ハ職權ヲ以テ之ヲ
ラ退休スルノ決定ヲナスヘキナリ此等ノ決定
ハ亦之ヲ論攻スルヲ得ス
訴訟告知ハ本案ノ裁判所ニ申請ヲ提出シテ以
テ之ヲナス其申請ニハ訴訟告知ノ理由及ヒ訴
訟ノ状況ヲ舉クルヲ要スルナリ然ル中ハ訴訟
裁判所ヨリ訴訟ノ對手人ヲモ示シテ以テ其訴

訟告知ノ副本ヲ其告知ヲ受クル第三者ニ送達
セシム
代言使用ノ強制ハ之アルトナシ故ニ当事者若
クハ其法律上代人ハ每常自身若クハ代人ヲ以
テ訴訟ヲナストテ得ヘク又代人ト共ニ出廷ス
ルトテ得ヘキナリ代言人ニ非サル者ハ輔佐人
トシテ出廷スルヲ得ス又代言人ニ非サル者ハ
訴訟代人トシテ出廷スルヲ得ルハ受訴裁判所
ノ允許ヲ經ルヲ要シ且其允許アリタル事件ニ
限ルナリ而シテ其允許ハ第一着ノ訴訟上ノ所
為ヲ行フノ前ニ故テ先ツ之ヲ請フヘキナリ但
シ其代人トナルモ其行務ニ付キ報酬ヲ請求ス
ルヲ得ス

訴訟代理ハ委任状ヲ以テ直クニ之ヲ証明スヘ
ク其委任状ハ裁判記録ニ編入スルモノトス又
委任状ナシト虽此口頭審問ノ期日若クハ受命
判事受託判事ノ前ニ放テ口頭ノ委任アリ之ヲ
調書ニ書キ確カメタル中ハ以テ能ク其委任状
ノ欠ヲ補フニ足ルヘキナリ
訴訟代理ハ又代人ヲ任シ上訴ヲ起シ再審ノ訴
ヲナシ和解ヲ以テ訴訟ヲ止メ訴訟ノ目的物ヲ
放棄ニ對手人ヲ主張スル請求ヲ承認シ及ヒ訴
訟ノ目的物若クハ對手人ヨリ辯償スル費用ヲ
受領スルノ權ヲ包含セス
訴訟代理ノ依頼者死亡シ又ハ其訴訟能力若ク
ハ其法律上ノ代理權ニ異動ヲ生シタル中ハ訴

訟代理権ハ消滅スルモノトス但シ其代人ハ此
ノ如キ変動ヲ直チニ裁判所ニ届出ツルノ義務
アルナリ當事者本人ヨリ訴訟代理ノ廢罷ヲナ
シ及ヒ代人ヨリ其辞退ヲナスモ亦直チニ裁
判所ニ届出ツルヲ必要トス而シテ裁判所ハ批
等ノ場合ニハ皆訴訟ノ對手人ニ之カ通知ヲ與
フヘク對手人其通知ヲ受ケル迄ニ其代人ニ對
シテ取行フタル所為ハ皆其知カヲ有スルナリ
又訴訟代人ニシテ死亡セ若クハ其訴訟ヲ続行
スルノ能力ヲ失フタル場合ニハ其手続ハ法律
ノ力ニ因リテ當事者本人カ或ハ自身或ハ更ニ
代人ヲ立テ、再々ヒ其訴訟ヲ続行スル迄中止
スルモノトス其ノ斯リ之ヲ続行スルカメニ

ハ裁判所ヨリ適當ノ期間ヲ定ムヘク其期間空
過シタルハ當事者之ヲ続行シタリト見做ス
ナリ
訴訟費用ヲ確定スルニ付テハ裁判所ニ於テ合
議裁判所ニ在テハ裁判長若クハ裁判長ノ命令ヲ
受ケタル判事ニ於テ、費用ノ計算ヲ査閲シ以テ
其金額ヲ確定スルモトス其確定ノ命令ハ確
定ノ申請ト共ニ必要ノ部數ヲ提出スヘキ費用
計算ノ謄本ニ添ヘテ之ヲ申請者及ヒ對手人ニ
送達スヘク其命令ニ對シテハ右當事者ヨリ七
日間ノ内ニ異議ヲ起スルヲ得其ノ異議ヲ起シ
タルハ裁判所ハ適當ノ場合ニハ對手人ノ陳
述ヲ聽キタル上決定ヲ以テ之ヲ裁判ス但シ口

頭審問ヲサカ、ルナリ其決定ニ對シテハ抗告

ヲサスルヲ得

訴訟ニ於テ立ツヘキ保証ハ当事者間ニ別段ノ

合意アラサル中ハ受訴裁判所ノ書記ニ寄託ヲ

ナシテ以テ之ヲ行フモノトス

外国人原告若クハ原告ノ参加人タルハ被告

ノ請求ニ隨ヒ其訴訟費用ニ付キ保証ヲ出スヘ

シ然レモ左ノ場合ニハ其義務ヲ有セサルナリ、

國際條約ニ交互ノ担保アルハ、外國人ニ對シテ

日本裁判所ニ訴訟ヲ起シタルハ、外國人其訴ニ

對シテ反訴ヲナシタルハ、為替訴訟ノ片及ヒ公

訴訟費用ニ依リ訴訟ヲ起シタルハ、即チ是ナリ

訴訟費用ノ支辨猶豫ヲ允許スルハ、既ニ前文ニ

掲クルカ如ク其受訴裁判所換事ノ裁定ニ任ス

ル所ナルカ故其允許ノ申請ハ書面若クハ口頭

ヲ以テ之ヲ右換事ニ提出スヘキナリ右換事其

申請ヲ正当ト見ルハ其允許状ヲ作りテ之ヲ其

無資力ノ当事者ニ發付シ其ノ之ヲ裁判所ニ提

出スルニ一任ス又其允許ハ再審右別ニ之ヲ與

フルニ非スシテ一々ヒ之ヲ與フルヤ其爭訟中

ハ強制執行ノ際ニ至ル迄始終其効力ヲ存保シ

唯其允許ヲ與フルノ要件初ヨリ具存セス若ク

ハ既ニ消滅シタル判然セルノ場合ニハ何時

ニテモ之ヲ取消シ得ヘキナリテ留保スルアルノ

ニ而シテ執行ノタメニ然ルニ但シ唯執行ノタメニシテ

送達ノタメニモ然ルニ非ス送達ハ職權ヲ以テ

之ヲ行フナリ其当事者ニ執達吏ヲ附スルハ其
執行ヲナスヘキ地ヲ管轄スル治安裁判所其中
請ニ依リ之ヲ許スナリ重要ノ場合ニ於テ其別
段ノ申請ニ依リ代言人ヲ附スルニ至ラハ其命
又受訴裁判所ノ檢事ヨリ出ツ

第三

訴訟手續ノ普通規定ヲ立テタル第三編ノ頭初
ニハ左ノ數原則ヲ掲ケタリ曰ハリ判決ヲナス
裁判所ニ於テナス当事者ノ争訟ニ関スル審問
ハ口頭ヲ以テス但シ此法律ニ口頭審問ヲナサ
スレテ裁判ヲ下スルヲ規定シタル片ハ此限ニ
在ラス裁判ハ口頭審問ヲナサ、ル片トモ合
議裁判所ニ在ラハ要數ノ判事ヲ以テ充タシタ

ル裁判所之ヲ發スヘシ法廷外ニ於テ訴訟ヲ指
揮スル命令ヲ發スルハ合議裁判所ニ於テハ裁
判長若クハ裁判長ノ命ヲ受ケタル判事之ヲナ
スト

又曰ハク口頭審問ハ書面ヲ以テ之ヲ準備ス上
此準備書面ノ記載事項ハ大要全ク我訴訟法第
百二十一條百二十二條ニ相同シ但シ既ニ前文
ニ掲ケルカ如ク代言使用ノ強制ヲ取ラザリシ
ヲ以テ其訴訟ニ関スル我法ノ規定ハ之ヲ載セ
ザルナリ
書面ノ方式ニ関スル規定ニ至ラハ頗フル嚴重
ニシテ又特異ナリ即チ其規定ニ依ルニ書面ハ
皆本人ノ自筆署名及ヒ捺印アルヲ要シ書面數

葉ヨリ成レキハ毎葉契印ヲ施スヘシ本人自ラ
署名ヲナシ若クハ自印ヲ押捺スルニ能ハサル
片ハ官吏ノ面前ニ於テ其書面ヲ作ル場合ノ外
ハ代人ノ署名捺印シテ其支障ノ事由ヲ記載
スヘシ書面ハ之ニ捺削ヲ加フルヲ得ス若シ行
間若クハ欄外ニ文字ヲ挿入シ或ハ文字ヲ塗抹
スル片ハ其場所ニ其字數ヲ掲ケテ捺印スヘシ
文字ヲ塗抹スルニハ其字体ノ尚明瞭ニ讀ミ得
ヘキ様塗抹スヘキナリ
書面ハ其附屬書類及ヒ對手人ニ交付スルカ
キニ必要ナル謄本ト共ニ当事者之ヲ裁判所
書記ニ差出スヘク或ハ自己ノ危険ヲ以テ之ヲ
郵送スルモ可ナリトス其書面裁判所ニ到達シ

タル片ハ書記ハ直々ニ其到達ノ時日及ヒ附屬
書類等ノ部數ヲ之ニ附記シテ捺印ス
口頭審問ノ準備ノ用ニ供スル書面ノ記載事項
及ヒ方式ニ関スル規定凡ソ右ノ如シトス此規
定ハ訴訟ニ関シテ当事者若クハ當事者外ノ人
ヨリ裁判所ニ提出スル申請書陳述書通知書具
告書等ニモ相当ニ適用スヘキナリ又口頭ヲ以
テ其申請等ヲナストシテ其訴訟法ニ許シタル場
合ニ於テハ書記其本人ノ費用ヲ以テ之ヲ調書
ニ記載スヘキナリ
口頭審問ニ関シテハ我訴訟法第百二十七條ノ
規定ヲ文字ノ供移用セリ而シテ尚規定シテ曰
ハリ凡ソ口頭審問ニ提リテ發スル裁判ハ之カ

言渡ヲナスヲ要ス他ノ裁判ハ其正本ヲ作リラ
之ヲ当事者ニ送達スルハ其際ニ在席セザルハ之
有シテ第三者其言渡ノ際ニ在席セザルハ之
カ言渡ヲナスノ外尚其正本ヲ作リテ第三者ニ
送達スルハ第三者ハ尚其言渡ノ際ニ在席シタ
ルハト雖モ其正本ヲ請求スルノ權ヲ有スト
次ニ手續審判ノ公行及ヒ法廷取締ニ関スル規
定并ニ裁判所ノ用語ニ関スル規定アリ其大要
皆我裁判所構制法第七十條乃至第九十三
條ノ如シトス而シテ法廷ニ於テ不敬ノ所為
ル者ハ常人ナル中ハ二十日以下代官ナラズ
ハ五十四日以下ノ科料ニ處ス通事若クハ警者
者モ其署官ニ捺印スルハキナリ

又其次ニハ送達先ニ日期間及ヒ日期間ヲ
怠リタルノ結果ニ関スル規定アリ是レ亦全ク
我法ノ如シトス故ニ又稍々重要ノ差違ヲ示ス
= 送達ハ郵便ヲ以テスルハ又當事者ヨリ行
フ送達ニテモノナクハヤ書記其職權ヲ以テ
執達吏ニ送達ノ依頼ヲナシ若クハ其裁判所ノ
管轄區外ニ送達ヲナス場合ニハ其送達地ヲ管
轄スル治安裁判所ノ書記ニ其依頼ヲ囑託スル
キナリ其送達ヲ終ハリタル上ハ送達証書ヲ訴
訟記録ニ編入ス
= 訴訟裁判所ノ所在地ニ住居セザル當事者ハ當
= 對手人ノ申立裁判所ノ命令アル中ニ送達代

受者ヲ置クヲ要スルノニナラズ送達書類ヲ受
領スルカタメニハ其中立其命令ナシト云凡必
ス右ノ所在地内ニ住居スル第三者ノ許ニ其住
居ヲ定メテ之ヲ裁判所ニ届出ツルノ義務アリ
トス然ラズニハ進テ其届出アル迄ハ之ニ送達
スハキ書類ハ毎ニ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ以
テ其送達ヲ行フタルモトナサリ其掲示ニ
付テハ訴訟記録ノ中ニ懸憑ヲ留ムハ佛法ヲ
模倣セシ此送達上ノ住所ノ以降ノ適用ニ関シ
テハ尚後文ニ述フル所アルニシ
当事者訴訟代人ヲ立テ、其代人其委任ノ趣旨
ニ依リ当事者ヲ代理スルノ権アルハ其代人
ニ送達ヲ行フナリ

家主若クハ賃貸人ニ對スル代送達ノ制ハ之
ヲ採用セザリキ
送達ノ名宛人若クハ送達ヲ代受シ得ヘキ者見
当ラザルヲ以テ送達ヲ行フ不能ハサレ場合ニ
ハ執達吏ハ其書類ヲ戸長若クハ區長ニ交付シ
戸長區長ハ送達書ノ受領ノ部ニ捺印シテ其書
類ヲ受取人ニ渡スカタメ相当ノ勞ヲ執ル
治外法權ヲ有スル人ニ送達ヲナシ外國ニ於テ
送達ヲナシ及ヒ通常ノ兵營外ニ此駐スル軍隊
若クハ艦装シタル軍艦ニ屬スル者ニ送達ヲナ
スニ付テハ裁判所ヨリ成規ノ事務手續ヲ踐テ
司法大臣ニ報告ヲ提出シ司法大臣ヨリ必要ノ
囑託書ヲ發スルナリ

公示送達ハ其ノ送達ニ書類ノ抄本ヲ裁判
所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ尚裁判所ノ思量ニ因
リテハ之ヲ新聞ニ廣告シテ以テ之ヲ行フナリ
而シテ第一回ノ公示送達ハ之ヲ掲示板ニ掲示
シ若クハ新聞ニ廣告シタルヨリ十四日ヲ経過
スル中ハ之ヲ行フタルモトナシ同一ノ事件
ニ関スル其以後ノ公示送達ハ都一テ之ヲ掲示
板ニ掲示スルヲ以テ直チニ之ヲ行フタルモ
トナス
期日期間ニ関スル規定ノ中ニハ当事者ヨリ行
フ呼出、代言、訴訟及ヒ当事者ヨリ行フ送達ト相
連係スルノ規定ハ都一テ之ヲ欠ケリ其他裁判
所ノ休暇ト相連係スルノ規定ヲモ存セス是レ

亦裁判所ノ休暇ニ関スルノ規定アラサルヲ以
テナリ
期日期間ヲ定ムルニハ当事者ヲシテ審問ヲ受
クルニ適當ノ準備ヲナシ且判事ノ指命ニ應シ
得ヘキ時間ヲ得セシムルヲ要スルナリ而シテ
此呼出期間及ヒ法定裁定ノ期間ヲ算スルニ当
リテハ裁判所ノ所在地外ニ住居スル人ノタメ
ニハ其ノ所在地ニ来ルカタメ若クハ其ノ陳述
ヲ裁判所ニ致スカタメニ要スル時日ヲ陸路之
ヲ算スヘク其算除方即チ陸路ハ八里ヲ以テ一
日程八里未滿ト雖モ三里以上ナル中ハ亦一日
程トシ水路ハ四里ヲ以テ陸路ノ八里ニ準スル
ナリ且シ外國ニ向テ呼出ヲナス場合ニハ裁判

所ノ思量ヲ以テ事状ニ應ジ其算除スヘキ路程

日數ヲ定ムルモトス

緊急期間ノ遲滯ニ對スル旧状回復ノ制規ハ之

ヲ採用セズ之ヲ採用セズシテ辨償命令ニ對ス

ル異議、控訴、上告、故障、抗告及ヒ再審ノ訴ノ如キ

孰レモ期間ニ拘束セラル、法助手段ニ関シテ

一々異常ノ救助方ヲ立テラレタリ此点ハ尚後

文ニ於テ述フヘシ然レモ其以下ノ全ク同様ナ

ル場合一ヲ遺過シタルヲ憾ムナリ即チ上告ノ

受理不受理ニ関シテハ上告人ヲ呼出シテ前審

問ヲ開キ以テ別ニ裁判ヲナシ上告人ノカ期日

ニ出席セサルハ上告ヲ願下ケタルモト見

做スナリ然ルニ此遲滯ニ對シテハ天災其他避

ク可ラサル偶然ノ出来事ノタメニ然リシ場合

ト虽モ亦救助ヲ許スナシ

第三編ノ末章ヲ訴訟記録ノ外制ニ関スルニ三

零碎ノ規定ト人然レモ大體ニ於テハ尚亭園ノ

法規ト相符合セリ而シテ尚數規定アリ曰ハク裁

判所若クハ其官吏ノ作リルヘキ調書裁判書及

と其他ノ書類並ニ其正本謄本及ヒ抄本ニハ年

月日場所裁判所ノ印章及ヒ其官吏ノ署名捺印

ヲ具フヘシ若シ裁判所ノ印章ヲ押捺スルニ能

ハサルハ其支障ノ事由ヲ掲クハシ毎葉ノ契

印文字ノ捺削挿入及ヒ塗抹ニ関シテハ準備書

面ト同一ノ規定ニ因ルト

又曰ハク裁判所ニ提出シタル書面若クハ書類

又ハ調書裁判書ノ正本若リハ謄本ヲ所持スル
當事者ハ裁判所ノ求メニ應シ之ヲ差出スノ義
務アリトス若シ之ヲ拒ミタルハ或拾圓以下
代官人ハ五拾圓以下ノ料料ニ處スト
其他又我訴訟法第二百七十一條ヲ襲用シテ之
= 附スル = 當事者ハ裁判所ノ允許ヲ得タル止
訴訟記録ヲ閱覽スルヲ得トノ程限ヲ以テセ

第四編ノ第一審手續ニ於ケルヤ我訴訟法ト同
ク先ツ第一段ニ始審裁判所ニ関シテ又唯始審
裁判所ニ関シテノ週到ノ規定ヲ立テ次ニ治
安裁判所ノ通常手續ニ関シテハ獨リ其特別ノ

点ヲ掲規セリ
甲○始審裁判所ニ於ケル其手續ハ之ヲ分ツ左
ノ如シ口頭審問ニ至ル迄ノ手續、口頭審問、證據
採收、判決、及ヒ遲滞判決即ケ是ナリ而シテ證據
採收ハ又之ヲ分ツテ其普通規定各種ノ證據方
法及ヒ證據保全ノ三目トス
其一○其手續ノ採行方ニ至テハ私操行(ゴバリイ)ニ
非ス官操行(ツツリイ)ニシテ即ケ中止ノ手續ヲ再々
ト流行スルノ方法補助參加及ヒ訴訟告知ノ提
出ニ関スル前掲ノ規定ニ於テ既ニ然ル如シト
ス是故ニ訴ハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ以テ之
ヲ提起スハキナリ訴狀ノ記載事項ハ我訴訟法
第二百三十條ニ定ムルカ如シトス其他確定ノ

訴^(ノエントラテ)ハ全ク我訴訟法第二百三十一條ノ如ク事件ノ合訴^(ヲアヒケケテ)モ亦我訴訟法第二百三十二條第一項ノ如クニ之ヲ許シタリ但々事件ノ合訴ニ関シテハ請求ノ種類相同シカラズニテ其原因亦主要ノ牽連ヲ有セサルモノハ之ヲ合訴スルヲ得スト云フ程限アリ之ニ次テ訴状若シ双方ノ當事者争訟ノ目的物原告ノ請求ノ因テ起ル事實及ヒ一定ノ申立ヲ掲ケサル場合ニハ訴訟ヲ指揮スル命令ヲ以テ原告ニ其欠缺ヲ補全スルヲ余スヘク原告之ヲ補全セサルキハ其訴ヲ却下スヘシトノ規定アリ是レ亦手續ノ操行ヲ官操行ト定メタルヨリ生スルノ結果ニシテ裁判所カ共同訴訟及ヒ

補助参加ノ法律上受理スヘキモノナルヤ否ヤヲ査閱スヘキ前掲ノ義務ト相符合セリ訴ヲ送達スルキハ事件ノ拘束茲ニ成リ我訴訟法第二百三十五條及ヒ第二百四十條ニ定ムルカ如キ効果ヲ生スルナリ既ニ起シタル訴ノ願下ケハ口頭審問ノ際ニ其陳述ヲナスニ非サレハ裁判所ニ書面ヲ提出シテ以テ之ヲナスモノニシテ若シ被告ノ承諾ヲ要スルキハ其承諾ヲモ書面ニ添付スヘキナリ既ニ訴ヲ送達シタル場合ニ至テハ裁判所ヨリ其書面ノ副本ヲ被告ニ送達ス其他ハ皆我法ト相同シ成規ニ適ヘル訴状ノ副本ハ十四日内ニ若シ外

呼出スナリ而シテ其日取ハ呼出ノ送達ト期日
トノ間ニ七日以上ノ期間アルヲ必要トス外國
ニ送達ヲナス場合ニハ事状ニ隨ヒ其期間ヲ定
ムヘシ
準備書面交換ノ期間ハ當事者ノ申立ニ依リ裁
判長ノ別段ノ命令ヲ以テ適宜之ヲ延長スル
ヲ得又毎書面ニ付キ三日間迄ニ之ヲ短縮スル
トヲ得ルモノトス
急速ノ事件ニ於テハ當事者ノ申立ニ依リ起訴
以後ノ書面交換ヲ行ハスシテ口頭審問ノ期日
ヲ開クヲ得ハキナリ七日ノ呼出期間ニ至テハ
此場合ニ於テモ亦本来之ニ拠ルハキモノナレ
凡切迫ノ危険アルキハ別段ノ命令ヲ以テ之ヲ

其副本ヲ原告ニ送達ス而シテ答弁書ニ抗弁若
クハ反訴ヲ掲クル場合ニハ原告ハ七日内ニ再
訴状ヲ提出スルヲ得ヘク再訴状到達シタルキ
ハ其副本ヲ被告ニ送達ス再訴状ニシテ真正ノ
再訴若クハ反訴ニ對スル抗弁ヲ掲クルキハ被
告ハ七日内ニ再答弁書ヲ提出スルヲ得ヘキナ
リ再答弁書ヲ送達シタル上ハ又準備書面ノ交
換ヲ許ササルモノトス再訴状及ヒ再答弁書ニ
關シテハ訴状及ヒ答弁書ニ關スル規定ヲ相應
ニ適用スヘキナリ
準備書面ノ交換既ニ終リ又ハ準備書面ノ提出
ノ放棄アリ若クハ其期間既ニ経過シタルキハ
直ニ口頭審問ノ期日ヲ定メテ當事者双方ヲ

國ニ送達ヲナス場合ニハ事状ニ隨ヒ定メタル
期間内ニ答弁書ヲ差出スヘシトノ催告ヲ之ニ
附シテ裁判所ヨリ被告ニ送達スヘキナリ此答
弁書ハ準備書面ニ関スル普通規定ニ依リテ之
ヲ作り原告ノ請求ニ對スル陳述被告カ提起ス
ル不服ノ理由トナルヘキ事實證據方法及ヒ一
定ノ申立ヲ掲クルヲ必要トス尚規定スルニ訴
ニ付キ設ケタル所ノ確定ノ訴及ヒ合訴ヲナシ
得ヘキト訴訟ヲ指揮スルノ命令ヲ以テ却下ヲ
大ス一及ヒ事件ノ拘束願下ノ一ニ関スル規定
ハ答弁ニモ亦之ヲ相應ニ適用スヘシト云フヲ
以テセリ
成規ニ適ヘル答弁書裁判所ニ到達シタルハ

二十四時間迄ニ短縮スルヲ得
其二〇口頭審問ニ関シテハ先ツ我訴訟法第百
二十八條第一項乃至第三項第百二十九條第百
三十條第一項第二項及ヒ第百三十一條ノ規定
襲用シタル上尚左ノ如ク規定セリ、陪席判事ハ
裁判長ノ許可ヲ經テ當事者ニ對シ我カ問ハシ
ト欲スル所ヲ問フ一ヲ得當事者ハ對手人ニ對
シテ自ラ問フナスヲ得先ツ裁判長ニ其申立
ヲナシ裁判長ヲシテ其問ヲナサシムヘシ當事
者問ハルモ答ヘス若クハ之ニ確答セサルモ
ハ對手人ノ利益トナルヘキ答ヲナシタルモノ
ト見做ス一ヲ得ト
妨訴ノ抗弁ハ我訴訟法第二百四十七條及ヒ第

二百四十八條ト同様ノ規定ニ依リテ之ヲナシ
得ヘキナリ唯其ノ異ナル所ハ其抗弁ニ関シテ
特ニ先ツ審問裁判ヲナスニハ毎ニ被告ノ申立
之アルヘリ其抗弁証拠ヲ要スルモノナルハ
直チニ之ヲ疏明スヘシ口頭審問ヲ始メタル後
ニ至リテハ被告ハ決シテ其抗弁ヲ起スヲ得ス
裁判所ハ被告カ故意ニ訴訟ヲ延滞セシムル
ヲ防カンカクメ申立ニ依リ本案ノ審問ヲ余
ルノ權ヲ自由ノ思量ヲ以テ行用ス但シ本案ノ
判決ヲ發スルハ必スヤ右抗弁ノ判決確定シタ
後ヲルヘシ本案ニ関シテ先キニ既ニ準備書面
ノ交換ヲナシタルハ又更ニ之ヲ余スルナ
シトスルノ數点トス

又攻撃及ヒ保護ノ方法並ニ証拠方法
ニ関シテモ同ク我訴訟法第二百五十一條第二
百五十二條及ヒ第二百五十六條ノ如クニ規定
ヲ立テ且右第二百五十二條ノ規定ヲシテ攻
方法証拠方法及ヒ証拠抗弁ノ上ニモ延及セシ
メタルリ然レ他ノ一方ニハ又左ノ決シテ輕カラ
サル制限ノ設ケアリ即チ反對ノ請求ハ相殺ノ
タメニスルト反訴ヲ以テスルト同ハス唯答
弁書ニ於テハ原告ノ請求若クハ原告ノ請求ニ對シ
ニ於テハ原告ノ請求若クハ原告ノ請求ニ對シ
テ提出スル抗弁ト法律上相牽連スルモノニ非
サレハ復タ之ヲ主張スルヲ得ス然レモ準備書
面ノ交換ヲナサ、リシ片ハ不牽連ノ反對請求

ト虽モ被告ハ相殺ノタメ若クハ反訴ヲ以テ本
案口頭審問ノ終結迄ニ之ヲ提出スルノ權アリ
トス反對請求ニ関スル右規定ノ外ハ書面ノ提
出ナキモ本案ニ関シテ權利上ノ不利益ヲ生セ
スト虽モ當事者若シ先キニ書面ヲ以テナスハ
カリシ申立若クハ事實ノ主張ヲ口頭審問ノ際
始テ提出シテ相手人其準備ヲ欠リカクメニ之
ニ對シテ陳述ヲナスコトヲ得ヌタメニ審問ヲ延
期スルノ必要ヲ生シタル中ハ之カタメニ生シ
タル費用ヲ其遲滞ノ責アル當事者ニ課ス因テ
當事者若シ先キニ書面ニ掲ケサリシ申立若ク
ハ事實ノ主張ノ相手人先ツ穿索ヲナスニ非サ
レハ之ニ對シテ陳述スルコト能ハサルヘシト思

ハル、モノヲ提出セント欲スルハ準備書面
ヲ以テ口頭審問ニ先ツ少ク氏三日前ニ對
手人カ其副本ノ送達ヲ受クハキ様速ニ之ヲ裁
判所ニ提出シ以テ右ノ不利益ヲ避クハシト
其他我訴訟法第二百五十四條及ヒ第二百五十
五條第一項ノ規定ヲ移用シ次ニ一般ニ左ノ如
ク定メタリ即チ當事者口頭審問中ニ行フハキ
訴訟上ノ所為ヲ其審問中ニ行ハサルハ復々
之ヲ行フヲ得ヌ此權利上ノ不利益ハ口頭審問
ノ終結ト共ニ自然ニ出來スト
次ニ裁判所ニ與フルニ亦我訴訟法第二百六十
八條及ヒ第四百三十八條乃至第四百十三條ニ於
テ之ニ與ヘタル權利ヲ以テシ附スルニ左ノ程

限ヲ以テセリ即チ勸解ニ不参シタル當事者ニ
ハタメニ無用ニ屬シタル其期日ノ費用ヲ負ハ
シムヘシ犯罪ノ嫌疑アルキハ審問ヲ延引人ヘ
シ審問ヲ延引スルノ命令ニ對シテハ又唯此余
令ニ對シテ抗告ヲ為スルヲ以降ノ演述ヲ差
トナスノ能力欠缺スルカタヲ以テ同時ニ
止メタル當事者ニハ新期日ヲ定ムルト同時ニ
自己ノタメ訴訟代人ヲ立ツヘキヲ余スヘシ
當事者此命ニ從ハサルキハ之ニ對シテ其適意
ニ自ラ退廷シタルト同漸ノ取計ヲ請求ニ依リ
ナスヲ得代言人ニ非サル代人モ亦其用ヲ十
サ、ルノ故ヲ以テ之ヲ退斥スルヲ得之ヲ退
斥シタルキハ更ニ期日ヲ定メテ其期日ハノ呼

出ヲナスノ際當事者ニ其退斥ノ決定ヲ送達ス
ヘリ其呼出ニハ又代言人ニ非サル代人ハ以後
之ヲ許サ、ルヲモ開示スルヲ得ト
次テ原告其請求ヲ放棄シ被告原告ノ請求ヲ或
ハ裁判所ニ於テ或ハ書面ヲ以テ是認シタルキ
ハ其争訟ハ何如ナル状況ニ在ルヲ問ハス終結
ス但シ其對手人ハ放棄ノ場合ニハ即時却下ヲ
ナサシムルヲ申立テ是認ノ場合ニハ即時勝訴ノ
判決ヲ與ヘラレシムルヲ申立ツルヲ得ト定メ
タル後我訴訟法第百四十五條第百四十六條第
百四十八條第百四十九條第一項第百五十條第
百五十一條ノ規定ヲ掲出セリ勿論其中ニ
ハ二三ノ差違アレ氏其差違ハ他ノ規定ヨリシ

テ自然ニ生スルモノニ非サレハ則チ重要ニ非
サルモノナルノミ
三〇「証」証扱方法ノ種類ヲ證人鑑定人證書檢證
及ヒ當事者ノ自證ニ分ケ以テ之ヲ明許シタル
其前ニ掲クル證扱採收ノ通則ニハ其發端トシ
テ左ノ數規定アリ曰ハク各當事者ハ其攻撃若
クハ弁護ノ方法ノ理由トスル事實ニ関シテ舉
證ノ義務アリトス原告ハ其ノ提起シタル請求
ノ成立スルニ必要ナル事實被告ハ其請求ノ成
立ヲ妨ケタル事實若クハ其請求ノ成立ハ之ヲ
リシモ次テ再々ニ廢滅シ無効ニ屬シ若クハ制
限ヲ生シタル事實ヲ證明スハシ其他各當事者
ハ其以降ノ攻撃若クハ弁護ノ方法ノ重要ナル

理由トナル事實ヲ同様ニ證明スハシ事實ヲ證
明若クハ辯誤ハ其ノ證明スハキ事實ノ眞實ナ
ルト若クハ不眞實ナルトヲ因リテ以テ推明シ
得ヘキ他ノ事實ヲ明攀シテ以テ之ヲナムトヲ
得ト
次テ我訴訟法第二百五十九條乃至第二百六十
四條及ヒ第二百六十六條ノ規定アリ然レモ其
中判事カ心證ヲ得タル所以ノ理由ヲ判決ニ掲
クルト損害若クハ利益ヲ舉證人ニ於テ評價ス
ルト及ヒ宣誓ヲ推付スルトニ関スルモノハ之
ヲ省キ宣誓シテ評價ヲナサシムルトニ代ハテ
裁判所ニ典フルニ其當事者自身ト虽モ之ヲ證
人トシテ證人ニ関スル普通規定ニ依リ職權ヲ

以テ之ヲ尋問ニ而カモ之ヲ尋問スルニ他ノ証
據採收ノ申立アリタルト否トニ相関セズシテ
之ヲナストテ得ルノ權ヲ以テセリ尚書面ヲ以
テ若クハ他ノ争訟ニ於テナシタル自白若クハ
裁判外ノ自白ノ効力ハ之ヲ判事ノ裁断ニ委ス
トノ定メモ之アリトス入疏明スヘキ主張ノ真
実ナルトテ宣誓ヲ以テ確保シ得セシムルトシ
代フルニ証人トシテ其主張ノ真実ヲ尋問スル
ヲ得ルトテ以テセリ
裁判所ハ當事者ノ指定シタル証據方法外ニ出
テ職權ヲ以テ其争訟ヲ審閱スルノ權アラサル
ナリ但シ左記ノ場合ハ之ヲ例外ニ置ケリ(三)事
外國ノ現行法内國ノ地方習慣法商業習慣若ク

ハ町村ノ定規其他人團ノ申合規則ニ関スルモ
裁判所其問題ニ係ル原則ヲ知ラサルハ當事
者ノ申立ナシト虽モ必要ノ調査ヲナストテ得
(三)事ノ状況他ノ方法ヲ以テ明ニス可ラサルニ
於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ換証若クハ鑑定ヲ
命シ又當事者ヲ証人トシテ尋問スルトテ得ト
定メタルト即チ是ナリ
証據採收ニ至テハ我訴訟法第三百二十條ノ規
定ヲ襲用セリ但シ他ノ裁判所ト云フテ治安裁
判所ト改メタリ
當事者ハ何如程其ノ指定シタル証據ヲ擧クハ
キヤ是レ裁判所ノ定ムル所トス証據ノ採收若
シ當事者演述ノ後直チニ之ヲ行フテ得ス則チ

或ハ新期日ニ訴訟裁判所ニ於テ或ハ受命判事
若クハ受託判事ノ之ヲ行フ場合ニハ証拠採收
決定ヲ以テ之ヲ命スヘキナリ
其決定ノ記載事項ハ我訴訟法第三百二十四條
ニ定メタルカ如シトス但シ宣誓ノ式詞ニ関ス
ル一日ハ之ヲ存セズ其決定ハ之ヲ論攻スルヲ
得ズ又其決定ハ職權ヲ以テ之ヲ結了スヘキナ
リ
受命判事若クハ受託判事ノ証拠採收ハ之ヲ公
行セザルナリ但シ當事者ニハ其証拠採收ノ期
日ヲ通知スヘク而シテ當事者ノ一方若クハ雙
方不参スルアリ比事状ニ於テナシ得ル限リハ
尚其証拠採收ヲ行フナリ又其際ニ異論出テ受

命判事若クハ受託判事之ヲ決着スルノ權アラ
スニハ其異論ノ裁判ハ之ヲ受託裁判所ニ任カ
スヘク其証拠採收ニ至テハ其異論ノ裁判何如
ニ因ルヘキモ、外ハ尚之ヲ續行ス其証拠採
收ニ於テノ審問ニ関スル調書ハ該判事之ヲ其
元本ヲ以テ受訴裁判所ニ交付シ若クハ送付ス
ルモトトス然ル中ハ受訴裁判所ヨリ當事者ニ
通知ヲナスヘキナリ
外國ニ於テ行フヘキ証拠採收ハ其外國ノ所管
廳若クハ其外國駐在ノ公使領事ニ囑託シテ以
テ之ヲ行フナリ其囑託書ニ関シテハ外國一ノ
送達ニ関スル規定ヲ相應ニ適用ス
証拠採收ニ関スル規定ヲ相應ニ適用ス
我訴訟法第三百

二十一條ノ旨意ヲ襲用シタル上左ノ規定ヲ掲
 ケテ以テ終結セリ
 證據採收ノ結果ニ関シテハ受訴裁判所ニ於テ
 當事者ヲ口頭審問ス此審問ハ受訴裁判所ニ於
 テ證據採收ヲ行シタル場合ニハ其證據採收ノ
 後直々ニ之ヲナスヘキナリ但シ更ニ其期日ヲ
 開クノ適當ト思惟スルハ此限ニ在ラズ受
 命判事若クハ受託判事ノ證據採收ヲ行シタル
 場合ニハ其證據採收ニ関スル調書ノ裁判所ニ
 到達シタル上其口頭審問ノ期日ヲ開クヘシ
 當事者ノ一方右審問ノ期日ニ不参シタル場合
 ニハ出廷シタル當事者ノ申立ニ依リ其レ迄ノ
 審問ノ結果ト其當事者ノ演述ニ從テ裁判ヲ下

スナリ此場合ニ於テ若シ其ノ出廷シタル當事
 者ヨリ新々ナル提擧ヲナス片ハ不参ノ當事者
 ニ對シテ取計ヲ一猶出廷シテ審問ヲ受ケタル
 七其對手人ノ提擧ニ對シテ陳述ヲセズ若クハ
 之ヲ拒ミタル當事者ニ對スルカ如クナル一キ
 ナリ當事者ニシテ若シ双方共不参シタル場合
 ニハ九ノ口頭審問ノ期日ニ双方共不参シタル
 場合ニ付キ定メタル規定ヲ相應ニ適用スルモ
 ノトス此規定ハ之ヲ後文ニ示スヘシ
 其裁判ヲナスニ付テハ裁判所ハ證據採收ノ決
 定ノ旨意ニ拘束セラレ、トナシ

證據採收ヲナシタルモ其事件未タ裁判ヲ下ス
 追ニ熟ヒスト思惟スルハ裁判所ハ証拠採收
 ノ補完ヲ決定スルヲ得ルモノトス又一部若ク
 者ノ不参レタルカタメニ證據採收ノ一部若ク
 ハ全部ヲ行フコト能ハサリシ場合ニハタメニ其
 手續ノ遅延スルコトナク若クハ舉證者其過失ニ
 非ラズシテ前期日ニ出頭スルコト能ハサリシ
 ヲ疏明スルニ於テハ申立ニ依リ其追行若クハ
 追備ヲナシ得ヘキナリ
 裁判所ハ適當ノ期間ヲ定メ以テ証拠採收ノ費
 用ヲ豫納スヘキコトヲ當事者ニ命スヘシ此命令
 ハ之ヲ論致スルヲ得ス此命令ニ從ハサレバ
 其証拠採收ヲ行ハス

口其各種ノ証拠方法ノ中先ツ証言ニ関シテハ
 其義務呼出及ヒ不参ノ結果ハ大要我法ニ定ム
 ルカ如シトス其不参ノ罰トシテハ二十四以下
 ノ材料ヲ科スルナリ又皇族及ヒ勅任官ノ証言
 ヲテスヘキ場合ニハ受命判事若クハ受託判事
 其居所ニ就テ之ヲ尋問ス
 証言ヲ拒ムコトヲ得ルハ左ノ如シ(一)刑法第百十
 四條第百十五條ニ定メタル當事者ノ親族(三)當
 事者ノ後見ヲ受クル人(三)當事者ノ僕婢其他當
 事者ニ勤仕シテ其家ニ屬スル人(四)官吏若クハ
 先キニ官吏タリシ者ハ其職事秘黙ノ義務ヲ守
 ルヘキ事状ニ付キ(五)醫師藥劑穂婆代言人公証
 人若クハ教導職ハ其職務身分若クハ生業ノ為

ナニ信託ヲ受ケタルニ因リ知り得タル秘密ノ
 事實ニ付(六)自己若クハ親族ノ恥辱トナリ若ク
 ハ其刑事訴追ヲ招クノ恐アル事實ニ付(七)自
 己若クハ親族ニ直接ナル財産法上ノ損害ヲ來
 タスヘキ事實ニ付(八)技術若クハ生業ノ機器
 ヲ洩ラスニ非サレハ供述ヲナス不能ナルモ
 即チ是ナリ但シ右ノ(二)及(七)ニ関シハ裁
 訟法^{第三百五十一條ノ例外アリ又全}第百九十一條第一項第三項ノ規定ヲモ
 襲用セラレタリ証人其証言ヲ拒絶シタル場合
 ニハ受訴裁判所ハ當事者ニ尋問ヲナシタル上
 決定ヲ以テ其拒絶ニ関スル裁判ヲナスヘキ
 由ノ正實ナルヲ宣誓ヲ以テ確保スルヲ命

令スルヲ得若シ一方ノ當事者不参シタル場合
 ニハ事ノ状況ニ依リ又出庭シタル當事者ノ提
 舉ヲモ顧慮シテ其決定ヲ下スナリ其決定ニ對
 シテハ舉証者及ヒ証人ハ七日以内ニ抗告ヲナ
 スノ權アリトス抗告ハ停止ノ効力ヲ有スルナ
 リ又証人其証言ヲ拒絶スルモ其理由ヲ示スナ
 ナク若クハ其示シタル理由終局ノ棄斥ヲ受ケ
 タルニ尚其言ヲ拒絶スルモ申立ヲ要セスシ
 テ証人ニ對シ其拒絶アリタルカ為メニ生シタ
 ル費用賠償ノ義務ヲ負ハシメ且四十四以下ノ
 料料ヲ科スルノ決定ヲ發スヘシ此決定ニ對シ
 テハ証人ヨリ七日以内ニ抗告ヲナスヲ得此
 抗告モ亦停止ノ効力アルモノトス軍人ニ對シ

テ右ノ科罰ヲ確定シ且執行スルニハ其等級ノ
高下ヲ問ハス軍事裁判所ニ囑託レテ之ヲ下
ヘキナリ其他証人充分ノ理由ナクシテ裁判所
ニ出頭セズ若クハ其理由ヲ示サズシテ証言ヲ
ナスコトヲ拒絶シ若クハ其理由ノ終局ノ棄作ヲ
受ケタルニ尚其証言ヲ拒絶スル片ハ拳証者ヨ
リ別段ノ訴ヲ以テ其タメニ生シタル損害ノ賠
償ヲ請求スルヲ得然ル片ハ反對ノ証拠アル迄
ハ証人ハ其証言スヘキ事實ヲ証言シ得ヘカリ
シト見做スナリ
右ノ規定ハ証言ノ拒絶ノミナラス又証人宣誓
ヲ拒絶スルニモ之ヲ用ルナリ証人ノ宣誓ハ天帝
呼称スルコトアルニ非スレテ愛憎畏懼ノ心ナ

ク全ク正實ニ供述ヲナスヘシ若クハナシタリ
ト云フニ在リトス但シ豫メ偽証ノ罰アルコトヲ
示諭スルコトアルナリ
証人宣誓ヲナシムルノ時及ヒ事實参考ノタ
メニ尋問ヲナスコトニ関シテハ其規定我訴訟法
第三百五十六條第一項及ヒ第三百五十八條ノ
第一項及ヒ第三百五十八條ノ第十乃至第三
於ケルカ如シトス
次ニ尚我訴訟法第三百五十九條乃至第三百六
十一條第二項ノ規定ヲ寫シ出シタル上又証人
ハ寫按ヲ朗讀シ若クハ其他ノ書キ物ヲ參着シ
テ以テ供述ヲナスヲ得スト規定セリ則チ必ス
口記臆ニ依リテ悉ク供述ヲ尽スヘク然ル上ニテ

始メテ書類ヲ閲覧シテ其供述ヲ補充シ正誤ス
ルヲ許スナリ但シ數字ニ関スル供述ヲナスノ
場合ニ至ラハ初ヨリ直々ニ書類ヲ用フルヲ
得
陪席判事ハ裁判長ノ許可ヲ得テ証人ニ對シ問
ヲ發スルヲ得當事者ハ証人ニ對スル尋問ヲ
中止スルヲ得又証人ニ對シテ自ラ問ヲナス
ヲ得ス則チ事狀ヲ明ニスルカタメニ有益ナリ
ト思惟スルノ問ヲナサント欲スル中ハ其問ヲ
發セラレシテ裁判長ニ申立ツヘキナリ其問
ノ許否ニ関シテ疑アル中ハ裁判所直々ニ之ヲ
裁判ス
証人ノ供述ハ之ヲ詳密ニ調書ニ記載スヘキナ
六八

リ且宣誓セシメテ之ヲ尋問シタルヤ否ヤ其宣
誓ハ尋問ノ前ナリシヤ將々後ナリシヤヲ明記
スルヲ要ス其尋問及ヒ宣誓若クハ不宣誓ノ
ニ関スル調書ノ部令ハ書記之ヲ証人ニ讀聞カ
シ若クハ視閲セシムヘシ証人ハ其際變更及ヒ
追補ヲナサンテ之ヲ請求スルヲ得其變更若ク
ハ追補ハ書記之ヲ証人ヨリ其請求アリタル
ヲ附記シテ調書ノ末尾若クハ欄外ニ記載スヘ
ク又同シク之ヲ証人ニ讀聞カシ若クハ視閲セ
シムヘキナリ其他一般ノ調書ニ付キ設ケタル
所ノ調書ヲ讀聞カシ若クハ親閲セシメ及ヒ本
人ニテ承諾シタルノ附記書記ノ立會及ヒ署名
捺印ニ関スル規定ハ此証人調書ニモ亦適用ス
六九

証人ノ尋問法定ノ順序ニ適ハス若クハ完全セ
ルモトス
証人ノ尋問法定ノ順序ニ適ハス若クハ完全セ
ス又ハ其供述明確ヲ欠キ若クハ疑義ヲ存シ又
ハ其供述ヲ追補シ若クハ正誤スルカタメ
ニ自ラ其申立ヲナシタル場合ニハ再々ヒ之ヲ
尋問スルヲ得
我訴訟法第三百四十條ノ第一第三及ヒ第四ニ
掲クル場合ニハ証人証據ノ採收ヲ受訴裁判所
ノ判事若クハ治安裁判所ニ任ズルヲ得ルモ
トス而シテ其証人若シ其受命判事若クハ受
託判事ノ前ニ出頭スルヲ能ハサル中ハ其居所
ニ就キ其尋問ヲ行フナリ
証人出廷セズ又ハ証言若クハ宣誓ヲ拒絕シタ

ル片其証人ニ對シテ受訴裁判所ニ與ハタル權
利ハ受命判事若クハ受託判事ニ放テモ亦之ヲ
有スルナリ然レモ証人若シ右等判事ノ前ニ放
テ証言ヲナストテ一般ニ拒絕シ又ハ宣誓ヲナ
スト若クハ判事ノ職權ヲ以テナリ當事者ノ申
立ニ依リテ折シタル問ニ答フルトテ拒絕シタ
ル中ハ其拒絕ノ正否ハ受訴裁判所ノ裁判スル
ト所トス又右等ノ判事ニシテ當事者ノナサレ
事者カ受訴裁判所ノ裁判ヲ請求スルニ任カス
ナリ又前掲ノ場合ニ放ケル証人ノ再尋問ハ右
判事モ獨立シテ之ヲ命ズルヲ得
証人ヲ申出テタル當事者ハ其尋問ヲ始ムル迄

ノ間ハ此証據方法ヲ放棄スルノ權アリトス其
後ノ放棄ハ對平人ノ承諾ヲ要スルカ
証人ハ日當及ヒ裁判所ニ出頭スルカ
ヲナスヲ要スル中ハ又旅費ヲ請求スル
有スルナリ而シテ其尋問ヲ受ケタル
リタルル片ハ直クニ其受クヘキ金額
求スルルヲ得其確定ハ裁判所若リハ
フタルル判事或規ノ比率ニ從ヒ之ヲ
ハ之ヲ論攻スルヲ得又其確定シタル
舉証者ノ支拂ヒタル費用豫額ヲ以テ
スルヲ得サレ片ハ証人ノタメ職權ヲ
徴収スニ依リ若クハ職權ヲ以テ其採
立ニ依リ若クハ職權ヲ以テ其採收ヲ決定

スル鑑定人ノ証據ニ関シテハ別ニ明文ノ存ス
ル外ハ証人ノ証據ニ関スル規定ヲ以テ
適用スヘキト我法ニ於ケルカ如シト
其別段ノ規定ハ左ノ數点ヲ除ク外我
第三百六十八條乃至第三百七十九條
相符合セリ其數点ト即チ左ノ如シ
之ヲ忌避スルヲ得九ソ裁判所若リハ
面前ニ於テ鑑定ヲナスヘシト陳述シ
証言ヲ拒ムノ權ヲ有スルト同一理
鑑定ヲ拒ムノ權ヲ有スルト同一理
キ義務ヲカカリシト雖モ又其義務ヲ
ス鑑定人ノ不参シ若クハ鑑定ヲ拒
キ科スヘキ科料ハ証人ト同一ナリ
鑑定人ノ宣

誓ハ鑑定人タルノ義務ヲ公平正実ニ盡クスハ
シト云フニ在リ一般ニ宣誓セシムルハ之
ヲサレナリ鑑定人ハ唯日當旅費ノ請求及ヒ立
替辦償ノ請求ヲ有スルニ止スリ其受クヘキ金
高ヲ確定スルニ關シテハ亦証人ニ關スル其
規定ヲ適用スト
三証書證據ニ於テハ先ツ公証書ニ關シテハ大
要我訴訟法第百八十一條第一項第百八十二
條第百八十三條第一項第三項ノ旨意ヲ襲用
シ次テ私証書ニ關シテハ其交付人ノ署名捺印
アル私証書其内ニ記載アル權利行為ニ關スル
述意ニ付キ完全ナル證據ヲ成ス私証書ニ記載
アル述意ニシテ權利行為ヲ包有セサルモノ

其交付人、交付人ノ相續人若クハ其他ノ權利承
継人及ヒ第百八十三條第一項第三項ノ旨意
ヤ及ヒ何如程之ヲ有スルヤハ裁判所事火ニ
ヒ之ヲ定ムヘシト規定セリ
次テ右種ノ証書ニ關シテ我訴訟法第百八十
四條ヲ襲用シ又其証書本人若クハ對手人ノ許
ニ在ル場合ニハ其證據ノ提舉大要我法ニ定ム
ル所ノ如シトス但シ對手人ヲシテ証書不提出
ノ宣誓ヲサシムルニ代フルニ當
事者ヲ証人トシテ尋問スルニ關スル普通ノ
規定ニ依リテ其對手人ヲ証人トシテ宣誓ノ上
之ヲ尋問スルニ以テセリ其對手人官廳ナル
中ハ其長官ヲシテ其証書官廳ニ保藏ナリ其所

在モ亦分明ナラストノ証明書ヲ出タサシムル
ナリ
舉証者其舉証ノタメニ要用ナル証書第三者ノ
所持ニ在ルヲ主張シ第三者ヲシテ其證書ヲ
提出セシメンヲ申立テ、其主張ヲ疏明シテ
之場合ニハ証據採收ノ決定ヲ以テ第三者カ其
証書ヲ提出スルヲ命スヘク且之ヲ提出セシ
ムルカタメ若クハ其所在ヲ証言セシムルカタ
メ第三者ヲ期日ニ呼出スヘキナリ其以降ノ手
續ハ即チ証人証據ニ関スル規定ニ因ルモノト
ス但シ第三者官廳若クハ官吏ナルハ裁判所
ハ証據採收ノ決定ニ基キテ之ニ其証書若クハ
証書ノ謄本若クハ抄本ヲ回付セラレシムルヲ囑

託スヘキナリ
其次ニハ又我訴訟法第三百十九條乃至第四
百三條第四百五條第四百六條第一項第四百七
條第四百八條ノ規定ヲ襲用シ唯之ニ輕少ノ附
益若クハ變更ヲ加ヘシメ
尚終末ニ規定シテ云ハク何人モ其筆跡若クハ
署名捺印ノ真否ヲ弁スルヲ能ハサル古書類ハ
裁判所其自由ノ信託ニ隨ヒ尚之ヲ真正ト看做
スヲ得惡意若クハ重過失ニ因リテ公証書若
クハ私証書ヲ偽造變造ナリト主張スルモノハ
五十四以下ノ科料ニ處スト又云ハク此証書ニ
関スル規定ハ事ノ本性ノ許ス限リハ事跡ノ記
念若クハ權利ノ表章ノタメ依リタル標本割符

如キ徴憑ニモ亦之ヲ相應ニ適用スト
「ホ」檢証々據ニ関シテハ我法ノ所定ノ如ク規定
シタル外尚規定シテ云ハク舉証者カ檢証目的
物ノ準備ヲナスヘキ義務及ヒ其目的物ヲ所持
セリト舉証者ヨリ主張セラル、對手人若クハ
第三者カ其目的物ヲ提出スヘキノ義務ニ関シ
テハ証書ノ提出ニ関スル規定ヲ適用スヘシト
「ニ」當事者ノ自証ハ以テ我法ノ當事者宣誓ニ代
フルモノナレド損害ノ有無若クハ其金額又ハ
賠償スヘキ利益ノ多寡ヲ確カメシムルカタメ
主張ノ真實ナルヲ証明セシムルカタメ及ヒ
証書ノ所持ヲ確カメシムルカタメ稍ヤ自由ニ
之ヲ差許ス前掲ノ場合ノ外ハ當事者カ提出シ

タル他ノ証據ノ以テ裁判所ヲシテ充分其証明
スヘキ事實ノ真否ヲ信認セシムルニ足ラサル
片ニ限り或ハ申立ニ依リ或ハ職權ヲ以テ之ヲ
許スノミ左レハ通例ハ唯我法ノ「必須宣誓」ノ用
ヲナスノミニシテ單ニ當事者間ニ於テノミ之
アリシ所ノ証記ナキ事實ハ全ク証據ヲ舉クル
ヲ得ス危懼ナキヲ得サルナリ
當事者ノ自証ニハ第三者ノ証人証據ニ関スル
規定ヲ相應ニ適用スヘク其異ナル所ハ左ノ數
點ニ在テ存スルナリ即チ當事者ヲ証人トシテ
尋問スルノ決定ヲ宣告スルニ當リ其當事者在
延スル場合ニハ直チニ其尋問ヲ行フヲ例トス
然ラサル場合ニハ証據採收ノ決定ノ意旨ニ依

リ尋問ヲナスヘキ事實ヲ告知シテ之ヲ新期日
ニ呼出スヘシ証言拒絶ノ權ニ関スル規定ハ官
吏ノ其權ニ関スルモノヲ除クノ外ハ之ヲ適用
セズ争アル事實ニ付キ舉証ノ義務アル當事者
ハ先ツ之ヲ証人トシテ尋問スルヲ例トス但シ
兩造一致ノ申立アリ若クハ事實ヲ明ニスルカ
タメ有益ト思惟スル片ハ先ツ其對手人ヲ尋問
スルヲ得各當事者ハ其對手人ヲ尋問シタル
上ハ自己モ亦証人トシテ尋問セラレンヲ求
ムルヲ得一當事者ヲ尋問シタル上其尋問ノ以
テ其証明アルヘキ事實ヲ充分明カニスルニ足
リスト思惟スル片ハ又職權ヲ以テシテモ其對
手人ノ尋問ヲナスヲ得舉証ノ義務アル當事

者其証言ヲ拒絶シ其拒絶正當ナル片ハ裁判所
ハ當事者ヲ証人トシテ尋問スルヲ全ク差止
ムヘキヤ將タ對手人ノシテ尋問スヘキヤ事
ノ狀況ニ從ヒ定ムヘシ舉証ノ義務アル當事者
其争アル事實ヲ知ルヲ能ハスト裁判所ニテ思
惟スル片モ亦右ニ同シ當事者ヲ証人トシテ尋
問スルノ前ニハ先ツ之ヲシテ宣誓セシムヘシ
但シ裁判所ハ一當事者ヲ宣誓セシメテ尋問ヲ
ナシタル上尚其對手人ヲモ証人トシテ尋問ス
ル片ハ其尋問ノ終結ニ至ル迄其宣誓ヲ延引シ
其供述全ク信ス可ラサル片ハ亦其宣誓ヲナサ
シメサルヲ得當事者ヲ証人トシテ裁判所
ニ出頭セシムルカタメ若クハ証言ヲナサシム

ルカタメニハ之ヲ料料ニ處シ若クハ引致スル
ヲ得ス當事者充分ノ理由ナクシテ其証言ヲ拒
絶シ若クハ之ヲ証人トシテ尋問スルカタメニ
定メタル期日ニ不参スル片ハ裁判所ハ之ヲ
テ其尋問ニ由リテ眞實ナラストノ證據ヲ奉ケ
シメントセシ對手人ノ主張ヲ眞實ナリト認ム
ル一ヲ得訴訟無能力者ノ法律上代人訴訟ヲ十
ス場合ニハ其代人ヲ証人トシテ尋問スヘキヤ
其無能力者ヲ証人トシテ尋問スヘキヤ將タ西
人共ニ之ヲ尋問スヘキヤ是レ裁判所ノ思量ニ
一任ス但シ此場合ニハ其無能力者ハ滿十六歳
以上ナルヲ要スルナリ國家府縣郡區町村若
ハ社寺又ハ人團ノ當事者タル場合ニ至テハ當

事者ヲ証人トシテ尋問スル一ニ関スル右等ノ
規定ハ之ヲ適用スル一ナク其法律上代人ノ十
ス奉証ハ証人證據ニ関スル規定ニ依ル是其相
異ナル數點ナリ
一 證據保全ノ一ニ関シテハ亦我訴訟法ノ規定
ヲ襲用セリ其異ナル所ハ唯自明若クハ輕易ノ
變更ノニ自明ノ變更トハ例ニハ區裁判所ト云
フヲ治安裁判所トナシタルカ如シ
四〇 判決ニ関スル一節ニハ初メニ先ツ我訴訟
法第二百七十二條乃至第二百七十四條第二百
七十六條ノ規定ヲ掲ケタリ但シ我第二百七十
二條ノ第一項ハ之ヲ改メテ訴訟ノ本業又ハ豫
メ完結スヘキ争點裁判ヲナスニ熟スル片ハ裁

判所ハ判決ヲ以テ其裁キヲ發スヘシトナシ又
我第百七十六條ニ加フルニ請求ノ原因ニ付
キ發シタル判決ノ確定前ニ於テ其額ニ付キ審
問ヲナシタリ其額ニ関スル判決ハ妨訴抗弁
ノ際ニ於テ手續ト同ク右判決確定ノ後始メ
テ之ヲ發スヘシ先キニ既ニ其額ニ付キ準備書
面ノ交換ヲ行ナヒタル片ハ又之ヲ命スルナ
シトノ程限ヲ以テセリ
次テ規定シテ云ハク判決ハ審問アリタル總テ
ノ攻撃若クハ并護ノ方法ニ涉ルヲ要ス但ニ數
個ノ獨立ナル攻撃若クハ并護ノ方法ノ主張ア
リテ其中ノ一ヲ適切ナリト思惟スル片ハ裁判
所ハ其判決ヲ以下ノ方法ニ及オスノ義務ヲ有

セス原告ノ請求ヲ不當トスル場合ニハ其不當
トスル請求ヲ被告ヲ敗訴トスル場合ニハ被告
カ其責ヲ盡スヘキ給付所爲忍容若クハ不所爲
ヲ判決ノ本文ニ明掲スヘシ請求ヲ起スヘシ唯早
キニ過キタルノ故ノミヲ以テ之ヲ不當トスル
ノ場合ニハ判決ノ本文ニ唯其現時之ヲ不當ト
スルナラズヘシト然ル上又我訴訟法第百二
七十九條乃至第百八十一條第百八十二條
及ヒ三條ノ各第一句第百八十四條第百八
十條ノ諸規定ヲ取用セリ其内唯事實ヲ掲ク
ルニ當リテ之ヲ引称ニ止ムルヲ得ルナリニ関ス
ルノ規定ヲ欠リアルノニ其全ハ体要ノ變更ヲ
加ヘタルヲ見ス

判決ハ當事者孰シモ皆其送達アラシク申立
 ツル權アルナリ而シテ其申立アリタルハ密
 ニ申立人ニシテ又其對手人ニシテ其正本
 ヲ送達スルモト又判決ニシテ未タ言渡
 リ其署名捺印アラズハ其正本抄本若クハ謄
 本ヲ交付スルヲ得ス其正本抄本若クハ謄本ハ
 書記之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押捺スヘ
 キナリ
 次ニ又掲記シテ云ハク裁判所ハ其言渡シタル
 訴訟ノ全部若クハ一部ノ判決ニ拘束セラル
 モノニシテ之ヲ更正シ補完スルノ外ハ之ヲ廢
 罷シ若クハ増減變更スルヲ得スト而シテ其更
 正ニ関スルノ規定トシテ唯我訴訟法第百九

十條ノ第一項其補完ニ関スルノ規定トシテ全
 第百九十二條ヲ採用セリ但シ此第百九十
 二條ノ内ニ於テモ書函ノ送達及ヒ其記載事
 項ニ関スルノ規定ハ之ヲ除省シテ別ニ左ノ數
 規定ヲ加ヘタリ云ハク其補完ノ申立ニ関シテ
 ハ或ハ即時ニ或ハ更ニ期日ヲ定メテ口頭審問
 フナシ且其期日ニ雙方ノ當事者出頭セズ亦
 裁判ヲナス出頭セザリシ當事者ハ故障ヲ起ス
 ヲ得スト尚右更正補完ノ兩者ニ通シ規定シテ
 云ハク其更正若クハ補完ノ判決ハ之ヲ判決ノ
 一部トシ其原本及ヒ正本ニ加フヘシト
 次テ判決確定ノ効力ハ判決ノ本文ニ止マリテ
 其理由ニ及フノ得ストノ規定アリ又左ノ規定
 ハ七

ハハ
ヲ掲ケ以テ此一部ノ終結トセリ云ハク判決ヲ
發スルニ付キ卷葉スル判事判決言渡ノ時ト効
力及ヒ其正本抄本謄本ノ交付ニ関スル諸規定
ハ口頭審問ニ基キテ發スル決定ニモ其正本抄
本謄本ニ関スル規定及ヒ裁判所カ其判決ニ拘
束セラルルニキリ規定ハ口頭審問ヲナサズシテ
發スル裁判ニモ之ヲ相應ニ適用スト
五。遑滞判決及ヒ之ニ對スル法助手段タル故
障ニ関スルハ我訴訟法才ニ百九十五條乃至第
三百條第一項ノ諸規定ヲ皆採用セリ其果ナル所ハ
唯ニ三ノ變更及ヒ附加ニ止マルノ之今其中ニ
ラ稍ヤ緊要ノモノヲ掲ケンニ即チ尤ノ如シ

原告ノ不参ハ請求放棄ノ性質ヲ有スルナリ而
シテ未タ陳述ヲナシ、ニ先ツテ秩序維持ノ
タメ遑延ヲ命セラレ若クハ自ラ演述ヲナスレ
能ハサルヲ以テ訴訟代人ヲ用フニトノ命令
ヲ受ケテ之ニ從ハサル當事者ハ亦不参ト見做
スナリ我訴訟法第二百九十九條ニ宣誓ノ推付
トナシルハ之ヲ提出シタル問ト改メタリ左第三
百條第一ノ場合ハ之ヲ除去シテ代フルニ不参
シタル當事者ノ其不参ハ天災其他ノ事變ニ因
ルテ判然タルノ場合ト云フヲ以テセリ又新々
ナル提攀ヲ正時ニ通告セサルノ場合ニ関シテ
ハ尚、不参ノ當事者ヲ更ニ定メタル期日ニ呼出
スニハ其新々ナル提攀ヲ記載スル調書若クハ

書面ノ送達ヨリ其期日ニ至ル迄ノ間必要ノ期
間存スヘシト定メ且遲滞判決ヲ發スルノ申立
却下ニ對シテハ抗告ヲナストテ禁シタリ
口頭審問ノ期日(此口頭審問ノ期日ト云フハ別
段ナル規定ノ明文アルモ、外ハ都テ口頭審
問ノタメニ定メタル期日ヲ總稱シタルナリ)
當事者双方共不参シタル場合ニハ一方ノ當事
者ヨリ更ニ口頭審問ノ期日ヲ定メンテテ申立
ツル迄ハ其手續休止スルモトス而シテ若シ
一ケ年内ニ其申立アラザル片ハ其訴及ヒ或ハ
被告ヨリ起シタル反訴モ亦取下リタルモト
見做スナリ
故障期間ハ之ヲ緊急期間ナリト定示スルヲ見

ス、故障ハ書面ヲ提出シテ以テ之ヲ起スナリ其
書面ノ記載事項ハ我訴訟法第百五條ニ掲
ルモノ、如シ唯對手人呼出ノ一事項ヲ省キシ
ノ三、受理ス可ラザルノ素ヨリ明白ナル若ク
ハ定規ノ方式ニ依リテ定規ノ期間内ニ提起
キ故障ハ訴訟ヲ指揮スル命令ヲ以テ之ヲ却下
スヘキナリ其却下ノ命令ニ對シテハ七日以内
ニ抗告ヲナストテ得ル場合ヲ除キテハ凡ソ故
障アルヤ口頭審問ノ期日ヲ定メテ當事者双方
ニ呼出ヲナスモノトス我訴訟法第百六條ニ
命定シタル故障ノ査閲ハ訴訟ヲ指揮スルノ際
既ニ査閲ヲナスヲ以テ之ヲ追ヒ査閲ナリトセ
リ又我訴訟法第百九條ニ定規ノ方法ヲ以

一 遲滯判決ヲ發シタル中ハトシテ此要件
ニシテ除却セリ
故障ノ外尚非常故障ト云ハル法即手続ヲ許シ
タルハ特異ナリ即チ非常故障ハ天災其他ノ事
變ニ因リ若クハ其過失ニ非スニテ遲滯判決ノ
送達ヲ知ラス以テ定規ノ期間内ニ故障ヲ起ス
一ヲ得サリシ當事者之ヲ起スノ權アルモノニ
シテ其期間ハ七日トス其七日ノ期間ヲ起算ス
ルニハ其妨害ノ消止シタルノ日若クハ遲滯判
決ノ送達アリシヲ知リタルノ日ヨリスヘキ
ナリ然レモ徒過シタル故障期間ノ終結ヨリ起
算シテ若シ一ケ年ヲ經過シタルハ復タ非常
故障ヲナスヲ得ス非常故障ヲ提起スルノ書面

ハ故障ヲ提起スルノ書面ニ付テ定メタル要件
ニ適應シ且非常故障ノ理由トスル事實ヲ掲
ルヲ要スルナリ其以下ノ手續ニハ故障ニ關ス
ル規定ヲ相應ニ適用ス但シ其申立人ハ對手人
ノ陳述ノ有無ニ拘ラス非常故障ノ理由トス
ル事實ヲ疏明ス一ニ非常故障ノ許否ニ關スル
手續ハ之ヲ本案ノ手續ト統合スルヲ得
乙〇治安裁判決ニ於ケル手續ハ之ヲ右ツテ通
常手續督促手續及ヒ勸解手續トス
一〇其通常手續ニ關シテハ既ニ述ヘタルカ如
ク地方裁判所ノ手續ニ關スル規定ヲ適用スル
ヲ原則トシ其相違ノ點ハ一般ニ治安裁判所
ニ單獨判事ヲ置クヨリシテ自ラ然ルモト尚

特ニハ唯左ニ掲クルモノニ止マレナリ
 凡ソ訴其他申請通知陳述具告ハ書面ニテモ口
 頭ニテモ之ヲナス一ヲ得
 其訴アリタル中ハ別ニ訴訟ヲ開始スルニ障害
 ナラスニハ直々ニ口頭答弁及ヒ其以下ノ口頭
 審問ヲナスカタメ期日ヲ定ムルナリ書記ハ其
 訴状若クハ調書ノ謄本ヲ被告ニ送達セシムル
 ニ準備書面ノ交換ハ之ヲ行ハス然レモ一方ノ
 當事者ノ申立若クハ事實ノ主張ニシテ豫メ之
 ヲ對手人ニ告知スルニ非スニハ對手人ニ對
 シテ陳述ヲナス一能ハサルヘシト思惟スルモ
 ノハ其口頭審問ノ前ニ其當事者之ヲ一定ノ方
 式ニ依ラヌレテ直々ニ對手人ニ告知シ若クハ

對手人ニ送達セシムルカメ書面ナリ口頭ナリ
 ニテ之ヲ裁判所ニ申出ツルヲ得呼出期間ハ
 少クモ三日ナリトス但シ事切迫ナル場合ニ於
 テハ之ヲ二十四時間迄ニ短縮スル一ヲ得一ク
 外國ニ送達ヲナス場合ニハ事状ニ應シテ其期
 間ヲ定ムルヘキナリ
 次ニ我訴訟法第四百六十一條第四百六十五條
 第一項第三項第四百六十七條第一項ノ規定
 リ但シ權利關係ノ確定ヲ申立ツルノ場合ハ之
 ヲ除キタリ又左第四百七十一條第一項ノ規定
 リ以規定ニハ尚附規レテ云ハク自由承認放棄
 及ヒ和解ハ調書ヲ以テ之ヲ確カムルヲ要ス治
 安判事及ヒ書記ハ調書ニ署名捺印スルニ若シ

治安判事之カ支障アルハ書記ノ署名捺印ノ
 ニテ以テ足レリトスト
 二〇督促手續ニ関シテハ我訴訟法第六百二十
 ハ條乃至第六百三十三條第六百三十八條第一
 項第六百四十二條第六百四十三條ノ規定ヲ取
 用セリ唯其緊要ノ一處更トモ稱スヘキハ辨償
 命令ヲ發スルノ權アル裁判所ハ必ス其地ヲ管
 轄スル治安裁判所タルヘシトシタルノ一點ト
 ス
 之ニ反シテ其異議ニ関スルノ規定ニ至テハ相
 異ナル所少ナシトセズ即チ其規定ニ依ルニ債
 務者其請求若クハ請求ノ一部ニ對シテ正時ニ
 異議ヲナス片ハ其異議ヲナスニハ債務者其理

由テ示サシムシテ唯書面ナリ口頭ナリニテ辨償
 命令ニ對シテ異議スル旨ヲ陳述スレハ以テ足レ
 リトス其事件ハ尚拘束スルモ辨償命令其効力
 ヲ失ヒ又數請求ノ中ハ一二ノニニ對シテ異議
 スル片ハ他ノ請求及ヒ他ノ請求ニ関スル費用
 ノ部分ニ付テハ辨償命令其効力ヲ保ツト同シ
 ク皆然ル所ナレバ其事件若シ治安裁判所ノ權
 限内ニ屬スルモノナル片ハ職權ヲ以テ其通常
 手續ニ関スル規定ニ依リ口頭審問ノ期日ヲ定
 ムルナリ又其事件治安裁判所ノ權限内ニ屬セ
 ザル片ハ正時ニ異議アリタルトテ債權者ニ通
 知スヘク債權者ハ此通知ノ送達ヲ受ケタルヨ
 リ起算シテ一月内ニ其權限ヲ有スル裁判所

二 訴ヲ起スヘシ然ラハ事件拘束ノ効果消
滅スルモトス
執行命令ナルモハ之アルニ非ス則ケ債務者
若シ定規ノ期間内ニ異議ヲ起サ、ル片ハ辨償
命令ニ確定シタル遲滞判決ノ効力ヲ生スルナ
リ然レモ其異議ヲラサリシ一ヲ債権者ニ通知
シタルモ債権者其通知ノ送達ヲ受ケタルヨリ
三ケ月以内ニ其辨償命令ノ執行ニ得ヘキ正本
ヲ求ルル一ナキ片ハ辨償命令ハ其効力ヲ失シ
テ事件拘束ノ効果モ亦消滅スルニ至ルナリ其
時ヲ失シテ起シタル異議ハ命令ヲ以テ之ヲ却
下スヘシ其却下ノ命令ニ對シテハ七日以内ニ
抗告ヲナス一ヲ得

異議ノ期間ヲ空過シタル債務者ハ七日以内ニ
非常異議ヲ起ス一ヲ得ルモトス非常異議ニ
関シテハ非常故障ト同一ノ要件存ス一リ其他
非常故障ニ付キ定メタル他ノ規定モ亦之ニ相
應ニ適用スヘキナリ
三〇 勸解手續ハ其規定隨分綿密ニシテ中ニハ
又特異ノモノアリトス其手續ニ於テ証拠採收
ヲナスノ規定即ケ是ナリ勸解手續ノ規定即ケ
左ノ如シ凡ソ當事者ハ治安裁判所若クハ始審
裁判所ニ訴ヲ起サ、ルノ前又ハ督促手續ニ依
リテ辨償命令ヲ發スル一ヲ申立テサルノ前ニ
ハ其地管轄ノ治安裁判所ニ勸解ヲ申立ツルノ
権アリトス其申請ハ書面若クハ口頭ヲ以テス

ルヲ得但シ之ヲ對手人ニ送達スルヲ要セス又
其申請ニハ當事者雙方ノ氏名身分職業住所及
之爭論ノ目的物ヲ掲クハシ勸解ノ為メ當事者
ヲ呼出スニハ其呼出ニ前記ノ諸事項先ニ自身
ニテ期日ニ出頭スヘキノ催告ヲ掲クハク自身
ニ出頭シテ勸解ヲ申請シタル當事者ニハ口頭
ヲ以テ呼出ヲナシ且其對手人ニ宛テタル呼出
ヲ交付シテ之ニ其呼出ヲ送付セシムルヲ得
裁判所ノ開廳中ハ豫メ期日ノ定メナク當事者
雙方出頭シテ勸解ヲ受クルトヲ得勸解ノ審問
ニハ充分ノ事故アル外ハ代人ヲ差許サズ又當
事者雙方ノ申立アル外ハ裁判所ハ鑑定人
ヲ尋問シ若クハ檢證ヲナストヲ得勸解調和シ

タル片ハ之ヲ調書ニ確カムヘク一方ノ當事者
不參シ若クハ勸解不調トナリタル場合ニハ唯
其旨ヲノミ調書ニ記載スヘキナリ而シテ此場
合ニ於テハ勸解ノ費用ヲ將ニ起ル爭訟ノ費用
ノ一部ト見做スヘシ

第五

上訴ハ我法ト同ク控訴上告及ヒ抗告ノ三十リ
トス

一〇控訴ニ関シテハ先ツ我訴訟法第四百七十二
條第四百七十四條第四百七十六條第一項第四
百七十七條乃至第四百八十條ノ規定ヲ襲用セ
リ其内唯控訴狀ヲ送達スヘシト云フヲ改メテ
控訴狀ヲ管轄ノ控訴裁判所ニ差出スヘシトナ

及之第四百七十九條ノ第ニ省キシノニ然
ル上尚規定シテ云ハク扣訴ノ提起ハ當事者之
第一審ノ裁判所ニ届出ツヘシ其届出アリタル
*ハ書記扣訴人ノ費用ヲ以テ其訴訟記録ヲ扣
訴裁判所ニ送付ス素ヨリ受理ス可ラサル
分明ナル若クハ定規ノ方式ニ依リ定規ノ期間
内ニ提起スラサル扣訴ハ訴訟ヲ指揮スル命令
ヲ以テ之ヲ却下スヘシ其却下ノ命令ニ對シテ
ハ七日以内ニ抗告ヲナスヲ得ヘシト
扣訴ノ提起アリテ其扣訴素ヨリ受理スヘリ若
クハ定規ノ方式ニ依リ定規ノ期間内ニ提起ス
リタルモノナルキハ其扣訴状ノ副本ニ十四日
以内ニ答辯書ヲ差出スヘシトノ催告ヲ附シテ

之ヲ被控訴人ニ送達スルモトス其關係スル
所ノ大ナル若クハ錯雜ナル事件ニ在テハ適宜
其期間ヲ延長スルヲ得ヘキナリ其答辯書ハ準
備書面ニ関スル普通ノ規定ニ依リテ之ヲ作り
且被控訴人ノ一定ノ申立及之其主張スル新事
實新證據ヲ掲グルヲ必要トス又被控訴人ハ其
答辯書ヲ以テ扣訴人ノ扣訴ニ附帶シテ扣訴ヲ
ナスヲ得ヘリ而シテ此附帶扣訴ニ関シテハ
我訴訟法第四百八十二條第ニ項及七第四百八
十三條ノ規定ヲ適用セリ答辯書ニ新事實新證
據若クハ附帶扣訴ノ陳述ヲ載スル片ハ其副本
ヲ扣訴人ニ送達ス扣訴人ハ又七日以内ニ
對スル辯駁書ヲ差出スヲ得斯ルニ準備書面

ノ交換終リタル片ハ口頭審問ノ期日ヲ定ム
ルナリ
其以下ノ手續ニ至テハ特別規定ノ明文ナシル外
ハ始審裁判所ニ於ケル第一審手續ニ関スル規
定ヲ相應ニ適用スルキナリ而シテ其特別規定
トハ我訴訟法ノ左ノ條々ト人第四百八十七條
乃至第四百九十一條、但シ第四百九十一條ニハ
尚附加シテ云ハク相牽連セサル新夕ナル反對
債權ハ以テ相殺ノタメニ過キス凡亦唯
控訴狀若クハ答辯書ニ於テ之ヲ主張スル
ヲ得ハシ反訴ハ之ヲ提起スルヲ得スト、第四百
九十三條、第四百九十四條、第四百九十七條、但シ
査閱ハ訴訟指揮ノ際既ニ之アルヲ以テ茲ニハ

之ヲ追ヒ査閱ナリトセリ、第四百九十八條、第
百九十九條、第一項、第五百條、但シ第五百條ノ第
一ニハ故障ノ外尚非常故障ト云フヲ加ヘ其第
四ハ之ヲ改メテ其論攻ヲ受ケタル為替訴訟ノ
判決ニ於テ其敗訴シタル被告ノタメニ、別段ノ
訴訟ヲ以テ推理ヲ伸張スルヲ留保シタル事
トセリ、第五百一條、第五百四條、但シ第五百四條
ノ内ニハ左ノ意更アリ云ハク、扣訴人口頭ノ事
實上ノ提舉ハ被扣訴人ニ送達シタル書面ノ旨
趣ト相符合シ且第一審裁判所カ其裁判ノ根據
トナシテ其訴訟記録ニ判然タル攻撃若クハ辯
護ノ方法及ヒ証拠ノ結果ニ逆ハサル限リハ被
扣訴人ノ自認シタルモノト見做スハシト、及

第五百六條ノ第二項即チ是ナリ
次ニ又規定シテ云ハリ名称ヲ誤マリ他ノ上訴
トシテ提出シタルモノト雖モ素ト受理スヘキ
加訴ニシテ其當事者モ亦加訴ヲナスノ意旨ナ
リト推断シ得ヘクハ以テ加訴ヲナシタルモ
ノト見做スヘシト然ル後尚加訴提起ノ期間ヲ
徒過シタル當事者ノナシ得ヘキ非常加訴ニ関
スル規定アリ即チ其規定ニ依ルニ非常加訴ハ
天災其他避ク可ラサル事変ニ因リテ加訴ノ期
間ヲ守ルルコトヲ得サリニ當事者之ヲナシ得ヘキ
トシテ其期間ハ十四日、之ヲ起算スルニ
ハ其妨碍ノ消去シタル日ヨリスヘキトリ但シ

徒過シタル加訴期間ノ終結ヨリ起算シテ一年
ノ後ハ復タ之ヲ提起スルヲ得ス非常加訴ヲ提
起スルノ書面ハ加訴状ノ要件ニ適ヘル書面ニ
添ヘテ之ヲ差出スヘク且非常加訴ノ理由トス
ル事實及ヒ非常加訴ヲ提起ストノ陳述ノ掲ケ
ルヲ要スルナリ其申立人ハ對手人ノ陳述ノ有
無ニ拘ハラズ非常加訴ノ理由トスル事實ヲ疏
明スヘシ非常加訴ノ許否ニ関スル手續ハ其加
訴ノ手續ト之ヲ併合スルコトヲ得其許否ノ裁判
及ヒ其裁判ノ論攻ニ関シテハ加訴ニ付キ設ケ
タル其規定ヲ適用ス但シ非常加訴ヲナシタル
當事者ハ故障ヲ起スコトヲ得ス又非常加訴ノ許
否ニ關ヘル手續ノ費用ハ對手人ノ不當ナル異

議、タメニ生シタルモノ、外ハ非常扣訴ノ申
立人之ヲ擔當スヘシト
一〇上告ニ至テハ扣訴ヨリモ我法ト異ナル所
多シトス即チ上告ハ治安裁判所第二審裁判所
タル始審裁判所及ヒ控訴院ノ發シタル判決ニ
對シテ單訟目的物ノ價格如何ニ拘ハラズ之ヲ起
シ得ヘキモノニシテ其理由トスル所ハ唯法律
ニ背反シタル判決ヲナシ若クハ法律ニ背反シ
ウ、判決ヲナシタリト云フニ在リ得ヘキノ
而シテ法律ニ背反スルトハ法律ノ成文ナルト
慣習ナルトヲ問ハス之ヲ適用スヘキニ適用セ
ス若クハ適用ス可ラサルニ適用シタル場合又
ハ裁判手續ノ緊要ナル規定ニ牴觸シタル場合

ヲ云ヘルナリ判事カ其思量ニ隨ヒ適用スヘキ
規定ノ適用ニ付キ若クハ事實ノ判断ニ付キ失
擧アリトスルカ如キハ以テ上告ノ理由トスル
ヲ得ス勿論事實ノ判断ニシテ法律ニ背反スル
モノハ此限ニ在ラサルナリ
上告期間ニ関シテハ我訴訟法第四百九十三條
ニ定ムル所ノ如シトス唯之ヲ緊急期間ナリト
スルヲアラサルノミ
上告人ハ支辨猶豫ノ允許ヲ得タルニ非サル限
リハ上告ヲ提起スルノ前先ツ上告金十圓ヲ書
記ニ豫納スヘキナリ此上告金タル原判決ヲ破
毀シタル并ハ之ヲ還付スルモ若シ判決ヲ以テ
上告ヲ受理セスト言渡サシ若クハ受理セラレ

タル上告。不當ナリトシテ却下サレ若クハ上
告人上告ヲ願下ケタル場合ニハ之ヲ還付スル
トナシ支辨猶豫ノ允許ヲ得タル當事者ニ至テ
モ亦右等ノ場合ニハ將來之ヲ追納スルノ義務
ヲ負ハルモ、ニシテ其ノ此義務ヲ行フニ付テ
ハ一時支弁ノ猶豫ヲ得タル金額ヲ追納スルノ
義務ニ関スル規定ヲ相應ニ適用スルキナリ
上告ノ提起ハ上告狀ヲ大審院ニ差出シテ以テ
之ヲナスモノトス上告狀ノ記載事項ニ関シテ
ハ我訴訟法第五百十五條及七、第五百十六條ノ
規定ヲ襲用セリ但シ之ニ自明ノ變更ヲ加入且
第五百十五條ノ第三及七、第五百十六條ノ末項
ヲ削リタリ

上告狀ニハ上告金ノ受領證書若クハ支辨猶豫
ノ允許狀ヲ添附スルキナリ然ラズハ上告ノ
提起アリタルモノトセズ
上告ノ提起アリタルモノトセズ
出シテ口頭審問ヲ開キ判決ヲ以テ上告ノ許否
ヲ裁判スルモ、トス此前一審問ハ直ニ下
ニ掲ケルカ如キ報告判事ヲ任スルニ関スル
規定ヲ相應ニ適用シテ之ヲナスモノニシテ其
報告判事ノ演述ヲ以テ始マルナリ而シテ上告
受理スルヘキモノナルハ之ヲ受理スル旨ヲ言
渡スルヘク又素ヨリ受理スル可カラサルモノ
ナルカ
若クハ定規ノ方式ニ依リ定規ノ期間内ニ提起
スル若クハ上告ノ理由ニ関スル規定ニ依リ

不當ト人へキ場合ニハ不受理ナリトシテ之ヲ
棄ルスヘキナリ上告人若シ其前ハ審問ノ期日
ニ不参スルキハ上告ヲ願下ケタルモノトナス
上告ヲ受理シタル場合ニハ上告状ノ副本ニ十
四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシトノ催告ヲ附
シテ之ヲ被上告人ニ送達スヘキナリ其答辯書
ハ準備書面ニ関スル普通規定ニ依リテ之ヲ作
リ且定マリタル申立ヲ掲クルヲ必要トス又被
上告人ハ附帶ノ上告ヲナスコトヲ得ヘク然ルキ
ハ答辯書ニ其陳述ヲ掲クルヲ要スルナリ且上
告状ニ関スル規定ニ依ル不服ノ点若クハ一定
ノ申立ヲ掲クヘク然ラズンハ附帶上告ノ効力
アルヲ得ス其他ハ之ニ附帶扣訴ニ関スル規定

フ相應ニ適用スヘキナリ答辯書ニ附帶上告ノ
記載アルキハ其副本ヲ上告人ニ送達スヘク上
告人ハ又七日以内ニ之ニ對スル辯駁書ヲ差出
スコトヲ得ルモノトス斯クテ書面ノ交換終ハリ
タルキハ裁判長ハ報告判事ヲ任シ報告判事ハ
訴訟記録ニ據リテ七日以内ニ上告裁判ノメ
必要ナル事ノ事實及ヒ權利ヲ自己ノ法律上ノ
判断ヲ交シヘスレテ書面ニ作ルヘシ然ル上口
頭審問ノ期日ヲ開クナリ
其以下ノ手續ニ至テハ特別規定ノ明文アル外
ハ始審裁判所ニ於ケル第一審手續ニ関スル規
定ヲ適用スヘキナリ然レモ裁判所ハ其事件ノ
如何ナル状況ニ在ルヲ問ハズ其調和ヲ試ムル

ト得トノ規定ハ之ヲ通用スルヲ得ス又其特
別規定トシテハ我訴訟法第五百二十二條第
百二十四條第五百二十六條第五百二十七條及
七百五十五條七百五十八條ノ規定ヲ襲用セリ但シ第五
百二十八條ノ規定ノ内其末項ハ之ヲ刪除シ且
原判決破毀ノ場合ニ於テモ亦他ノ控訴院ニ其
事件ヲ移付スルヲ許スルニ改メタリ而シテ尚
左ノ特別規定アリ云ハク口頭審問ハ報告判事
其報告書ニ依リ演述ヲナスヲ以テ始マルモ
ナリトス當事者ハ之ヲ補充シ更正スルヲ得
次ニ自己ノ申立ヲ辯明スルカタメ發言スル
ヲ得入シ證據採收ノ必要ヲ生スルハ大審院
之ヲ命スル其舉行ハ大審院ノ思量ニ從ヒ大

審院自ラ之ニ任シ或ハ之ヲ他ノ裁判所ニ託ス
ルヲ得控訴ニ付キ設ケタル數規定就中遲滯
判決ノ論攻ニ關スル規定控訴ノ願下ニ關スル
規定扣訴ト故障ノ同時ニ提起アリタルハ於
ケル手續ニ關スル規定控訴人ニ不利ナル判決
ヲ許サハルノ規定遲滯判決ヲ發スルヲ
關スル規定控訴ノ届出ニ關スル規定訴訟記録
ノ送付及ヒ還付ニ關スル規定名稱ヲ誤マリテ
控訴ヲナシタルハ於ケル手續ニ關スル規定
ハ皆之ヲ上告ニモ相應ニ適用ス但シ其事件ヲ
原控訴院ニ再付シ若クハ他ノ控訴院ニ移付シ
タル場合ニハ訴訟記録ヲ直接ニ其控訴院ニ送
付シテ原第一審裁判所ニ其旨ヲ通知スハク又
大審院若クハ其移付ヲ受ケタル控訴院判決ヲ

ナシタルキハ原控訴院ニ其判決ヲ騰本ヲ與フ
ヘシト
天災其他避ク可ラサル事変ニ因リテ上告提起
ノ期間ヨリ徒過シタル當事者ハ非常上告ヲナス
ノ權アルナリ非常上告ヨナスニ付テハ非常控
訴ニ關スル規定ヲ相應ニ適用ス
三〇上告ト反シテ抗告ハ又殆ト全ク我訴訟法
ト符合セリ即チ我訴訟法第五百三十條乃至第
五百三十九條ノ規定ニ僅少ノ變更ヲ加ヘテ之
ヲ取用シタルモノ規定ニ僅少ノ變更ハ自明若クハ
不緊要ノモノヲ除キテ左ニ掲クルカ如シトス
即チ強制執行手續ニ於テ発スル裁判モ尚抗告
ヲ起シ得ヘキ裁判ノ一ナリトス以テ抗告ハ

之ヲ一般ニ許スナリ唯一ニノ特ニ掲クル場
合ニ於テ之ヲ許スノ其場合ハ強制執行ノ中
ニ存スルナリ(強制執行ノ編ニ至リテ之ヲ掲
シ)又特ニ規定シテ云ハク抗告裁判所ノ査閱ス
ル所ハ事職權ヲ以テ顧考スヘキ手續ノ欠缺ニ
關スルニ非サレハ唯其主張アリシ不服ノ点ニ
止ムベシ原裁判所ハ其拘束セル争訟ニ於テ抗
告裁判所ノ裁判ニ従フヘシト其他我訴訟法第
五百三十二條第二項ノ支辨猶豫ノ一ニ關シテ
抗告ヲナスト云フヲ删除シテ證書若クハ檢
證目的物ヲ提出スルノ義務アリトセラレタル
第三者抗告ヲナスト云フヲ加ヘ抗告カ停止
ノ効力ヲ有スルハ特ニ其旨ヲ掲クル場合ニ在

リトセリ又云ハリ抗告裁判所ノ裁判ハ原裁判
所之ヲ開示スヘリ但シ抗告裁判所別段ノ定メ
ヲナス片ハ此限ニ非ス名称ヲ誤マリテ抗告ヲ
ナシタルトニ關シテハ控訴ニ付キ設ケタル其
規定ヲ相應ニ適用ス天災其他避ク可ラサル事
変ノタメニ抗告提起ノ期間ヲ徒過シタル當事
者ハ非常抗告ヲナスヲ得非常抗告ヲ提起ス
ルニ付テハ非常控訴ニ關スル規定ヲ相應ニ適
用ス之ヲ提起スルノ期間ハ七日ニシテ其妨碍
ノ消止シタル日ヨリ之ヲ起算スト

